平成３０年度　第１号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成30年6月22日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

平成30年度　乳幼児教育ビジョン推進事業

〇乳幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿や大切にしたいこと等、目指すべき方向性を明らかにした「乳幼児教育ビジョン」を広く市民の皆さんにお知らせします。

〇公・私、園・校種を越えて保育者・教員が共に学び合う「乳幼児教育の質の向上研修」と「保幼小中連携研修」の充実を図り、引き続き実施します。さらに、0歳～15歳の学びや育ちを切れ目なくつなぐ、保幼小中の連携カリキュラムを策定します。なお、舞鶴市は文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の委託を受け、この事業を通して「幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究」を行ってます。

文部科学省調査研究委託「幼児教育の推進体制構築事業」

舞鶴市　平成30年度　乳幼児教育ビジョン推進事業

事業全体
〇乳幼児教育ビジョン推進事業　全体会・報告会
〇乳幼児教育フォーラム（市町村、委託研究自治体へ広報）

乳幼児教育ビジョンの周知
〇講演会、説明会等の開催
〇ビジョン通信の発行(家庭向けにビジョンの内容をわかりやすく発信)

乳幼児教育ｾﾝﾀｰ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ機能研究
〇行政による乳幼児教育の拠点機能研究
〇乳幼児教育の実践と専門家による研究等
各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

乳幼児教育の質の向上研修　対象：保育所・幼稚園、小学校
全体講師：北野幸子准教授[神戸大学大学院]

子どもを主体とした保育
講師：北野幸子准教授
（神戸大学大学院）
◇公開・カンファレンス
◇講義（ドキュメンテーション 、保育リー ダーの役 割　他）
◇グループワーク（ドキュメンテーション、公開保育の記録をもとに　他）
◇保育実践カンファレンス

保幼小連携
講師：木下光二教授
（鳴門教育大学大学院）
◇講義、グループワーク
◇公開・カンファレンス
◇小学校教育研究会生活科部夏季研究会合同研修会　他

子どもを主体とした保育
◇研究指定園

保幼小接続カリキュラム策定研究
講師：溝邊和成教授
（兵庫教育大学大学院）
〇カリキュラム策定会議
・保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員代表
・0－15歳を切れ目なくつなぐ保幼小接続カリキュラム「まいづる015」（仮）の策定
〇保幼小中連携研修
・全園・全校対象

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議
文部科学省の調査研究委託事業の実施について、研究推進体制の検討、研究結果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置しているもの

6月7日　第1回保幼小接続カリキュラム策定会議を実施しました。

3年目を迎える保幼小接続カリキュラム策定会議では、本年度は、昨年度調査・研究した事例に関連する「ねらい・内容」等についての検討をおこなうとともに、「様々な連携」として保育・指導要録や発達支援：個別支援計画の取り扱いについて、現状や課題、今後の方向性について協議してまいります。

第1回目の策定会議では、0歳～15歳並びに保幼小連携活動の事例をもとに、「ねらい・内容」についてグループごとに協議をおこなう中で、活発な意見交換がなされました。

次回も引き続き、0歳～15歳を切れ目なくつなぐ、保幼小接続カリキュラム「まいづる015」（仮）の策定に向け、検討、協議をおこなってまいります。

年間計画：保育者・教員等対象

※都合により変更となる場合があります。

期　日	内　容	場　所	備　考
6月22日（金）	（保育リーダー向け） グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館3F 会議室	
6月22日（金）	保育実践カンファレンス	西総合会館3F 会議室	公開実施園対象、希望する2～3園のみ
6月23日（土）	講演	商工観光センター5F コンベンションホール	講師：増田まゆみ先生
7月12日（木）	（フレッシュ向け） グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館3F 会議室	
7月13日（金）	公開保育・グループワーク・カンファレンス	相愛保育園	
8月17日（金）	保幼小連携活動指導案作成	西総合会館4F 多目的ホール	連携協力校・園で指導案を作成 ※生活科（小教研）との合同研修
9月18日（火）	グループワーク：ドキュメンテーション	勤労者福祉会館2F ホール	
9月18日（火）	保育実践カンファレンス	勤労者福祉会館2F ホール	公開実施園対象、希望する2～3園のみ
9月19日（水）	公開保育・グループワーク・カンファレンス	昭光保育園	
10月26日（金）	公開保育・グループワーク・カンファレンス	倉梯幼稚園	研究指定園　公開保育 講師：神代　千恵子先生
11月6日（火）	保幼小連携活動公開授業・保育研究会	未定	前回作成した指導案に基づいた活動を実施する 新舞鶴小学校・シオン幼稚園・昭光保育園・やまもも保育園
11月12日（月）	グループワーク：ドキュメンテーション	未定	
11月12日（月）	保育実践カンファレンス	未定	公開実施園対象、希望する2～3園のみ
11月13日（火）	公開保育・グループワーク・カンファレンス	岡田保育園	
平成31年1月予定	保幼小連携活動実践交流	未定	前回作成した指導案に基づき、各校・園で実施した活動を記録し、報告する
平成31年2月16日（土）	乳幼児教育フォーラム		環太平洋乳幼児教育学会日本支部共催 公開保育実施予定

★ 研究指定園（倉梯幼稚園）　指導：神代　千恵子先生　園内研究日：6月8日、8月3日、12月中旬
公開保育　：10月26日（金）　※前掲

年間計画：保幼小接続カリキュラム策定会議

※園長会等からご推薦いただいた保育者・教員及び園長・校長等による策定に向けた研究を行います。

期　日	内　容	場　所	備　考
6月7日（木）	策定会議	舞鶴市役所別館4F 413会議室	
7月17日（火）	策定会議	舞鶴市役所別館4F 413会議室	
10月18日（木）	策定会議	舞鶴市役所別館6F 大会議室	
12月13日（木）	策定会議	舞鶴市役所別館6F 大会議室	
平成31年2月15日（金）	保幼小中連携研修会（未定）	未定	保幼小接続カリキュラムについて

年間計画：市民向け講演会等

期　日	内　容	場　所	備　考
6月23日（土）	全体会、講演会	商工観光センター5F コンベンションホール	講師：増田まゆみ　※前掲
平成31年2月16日（土）	乳幼児教育フォーラム		環太平洋乳幼児教育学会日本支部共催 ※前掲

平成30年度　第２号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成30年11月9日
発行者　舞鶴市健康･子ども部

6月23日(土)乳幼児教育ビジョン講演会を実施しました

乳幼児期の子どもの育ちや学びの特徴を知り、乳幼児期に大切にしたいことを、皆さんと共に学び合う機会とするため講演会を開催しました。
保育所・幼稚園・小・中学校の先生方や市民の皆様にも多数ご参加いただき、市外からの参加も含め、187人の皆様とともに学びを深めることができました。

【日　　時】 平成30年6月23日(土)　13:30～16:00
【場　　所】 舞鶴市商工観光センター　5階　コンベンションホール
【講　　演】「0歳からの子育ち･子育て～育ちの連続性を大切に～」
講師　湘南　ケア　アンド　エデュケーション研究所
所　長　　増田　まゆみ氏
【対　　談】　湘南　ケア　アンド　エデュケーション研究所
所　長　　増田　まゆみ氏
神戸大学大学院　　准教授　　北野　幸子氏

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	池内幼稚園
さくら保育園	倉梯幼稚園
昭光保育園	シオン幼稚園
相愛保育園	志楽幼稚園
平保育園	中舞鶴幼稚園
タンポポハウス	舞鶴聖母幼稚園
なかすじ保育園	三鶴幼稚園
東山保育園	舞鶴幼稚園
八雲保育園	
やまもも保育園	倉梯第二小学校
ルンビニ保育園	志楽小学校
うみべのもり保育所	中筋小学校
中保育所	三笠小学校
西乳児保育所	

※五十音順

講演「0歳からの子育ち･子育て～育ちの連続性を大切に～」

日常生活･保育の中で、子どもは子ども相互･子どもと保育者･保育者と親との関わりを通して育つ。　～増田先生講演より～

【Ⅰ　実践しつつ考える保育者(保育を楽しむ人･新たな価値を創造する人)による保育を 】

学びの前に
○今の私を知る
●保育者･親として大切にしていること、保育者･親として知りたいこと･不安なこと
●「私」は
　私のよさ、課題
●「私の園･家庭」は･･･
　私の園･家庭のよさ、課題
○今の私を知る～あらためて
●私を支えてくれる人
●楽しんでいること･挑戦していること

◎今の自分を知ること、日々の保育の中で、また、家庭生活の中で、保育者として、親として、大切にしていることや課題を明確にすることは、保育、子育ての基本である。心の内で思い、考えていることをあらためて「可視化」し、他者との対話により伝え合うことにより、基本とする価値観が意識化され、具体的な取り組みへつながっていく。
◎慌ただしい毎日であるが、1日を、そして1週間を振り返り、「子ども、自分のこと、他者のこと」を、そして、保育や子育てを、「･･･できていない」、「うまくいっていない」、「困ったことだ」等と、否定的に捉えるのではなく、まずは、よさを、そして工夫、努力していることを意識すること、つまり、肯定的にとらえる姿勢が大切である。
◎よさを明確にした上で、さらに、よりよい「私、保育、子育て等」にしていくために、課題を明確にすること、その課題に対しては、具体的な対応を考え、取り組み、その結果、どのように変化しているかを認識し、次の取り組みに活かしていくことが求められる。
◎「子ども、保育、保護者、そして保育者等のよさを見いだそうとする温かなまなざし」こそ、保育、子育ての基本であることに、「今の私をあらためて知る」ことによって気づくことが、本研修の学びのポイントの一つである。
◎「保育士不足」、「就労期間の短さ」など、保育をめぐる環境は厳しい。そのような状況において、「私を支えてくれる人」の存在を意識していることにより、「困った時･できないときは助けてと言える」職場の雰囲気、人間関係が形成されていることが大事である。悩み、不安なとき、苦しんでいるとき、支えてもらい、乗り越えた経験のある人は、他者に自分がやさしくされたようにやさしくできる。しかし、やさしくしてもらった経験のない人は、どうしたらいいのかわからないのである。
◎よさを認め合う関係は、自己肯定感を高め、安心感の中で、子どもが、そして保育者、保護者が互いにかけがえのない存在として認め合い、主体的な行動を生み出していく。
◎「私を知る」の最後は、どんなに忙しい生活においても、人生を楽しみ、挑戦し続ける人であることが、人生を豊かに、そして、組織力を高めていくことにあらためて気づく。

【Ⅱ　子育ち･子育ての基本～映像を視聴し、保育を思考する】

映像を視聴し、心動かされたこと、考えたこと等を記録し、他者と対話することで、保育を多面的に捉える。
↓
保育実践の可視化･他者との対話　～「保育を語る･保育を思考する」ことのおもしろさ･大切さを実感する

◎日常生活･保育の中で、子どもは子ども相互･子どもと保育者･保育者と親との関わりを通して育つ。子どもは大人の他者への関わり、大人自身の姿を身体(こころ)全体で受け止め、身体(こころ)を通して感じとる。大人との相互作用を通して身体(こころ)を通して表現する。子どもが表現することに意味のないことは一つもない。
◎保育において、待機児の解消など数の確保が課題となっているが、数の確保と共に、保育の質の確保が必須である。保育の質･保育者の専門性を向上するためには、保育実践において、暗黙知をいかに可視化･共有していくかが大きく影響する。

【Ⅲ　子ども理解に基づく保育～関係発達の視点で 】

「育てられる者から育てる者へ(鯨岡峻　NHKブックス)」から

◎育てられる者から育てる者への一大転換である。単なる時間軸上の移行や立場の変化にとどまらない「生き方」の一大転換である。

乳児期前期の関係発達
◎3ヵ月微笑の重要な意味
「育てる者」があやしかけると微笑むことで、行動的な繋がり、気持ちの繋がりが生まれ、「育てる者」を“安心できる人”“うれしい気持ちにしてくれる人”“信頼できる人”と受け止めるようになる。
◎微笑み合いは、子どもに肯定的な経験を与え、育てる者の「育てる」構えを前向きに促し、「育てること」に自信を深め、どんなことがあっても最終的に自分がこの子を守る覚悟を育む。

乳児期中期の関係発達
◎「育てる者」が誘いかけ、子どもが反応するという構造が大切。
◎「育てる者」の「成り込み」(例　離乳食を食べさせる時などに、大人が大きな口をあけて見せるなど)や、育てる者が主導して築くことで、

保育の質･保育の専門性を向上するためには、保育実践において暗黙知をいかに可視化･共有していくかが大きく影響する。　～増田先生講演より～

講演　つづき

「育てる者」への基本的信頼感が形成していく。
◎「育てる者」と目が合うアイコンタクトは、気持ちが通じ合ったことを互いに確かめ合う重要な相互作用行為である。
◎「育てる者」は子どもの負の状態を優しく抱えることが大切であり、愛された経験、負の状態を優しく包んでもらった経験が、後に他の人の負の状態を見たときに、優しく接していける基底的な条件となる。

乳児期後期の関係発達

◎他者から受け入れられ、認められることで自信を形成し、そのことが子どもの満足感へとつながる。
◎育てる者は子どもを愛し、子どもを大事にする気持ちを持ち、子どもを一個の主体として認めることが大切である。
◎子どもは、自らの意図や要求を優先させる結果、「育てる者」の誘いかけを拒否し「いや」を表現する。「育てる者」とは異なる「別個の主体」であることに気づく。

幼児期前期（1歳過ぎから3歳）

◎1歳代は、手差しや指さしなど、非言語的な水準で自分の思いを表現する。大人の言語的な働きかけを理解し、応答的に指さしする。
◎子ども同志のかかわり合いが萌芽する時期であり、子ども相互の間で影響を受けていく。

2歳代から3歳代

◎「自我の芽生え」は、自分の「思い通り」を貫こうとする気持ちと、自分の「思い通り」を抑えて相手の気持ちを受けとめようとする気持ちとの間を調整する働きとして登場する。
◎幼児期に自己主張できることは、自我が育つための必須の条件である。
◎完璧主義でもなく放任主義でもない、「ほどよい育てる者」であることが大切である。
◎幼児期の意義は、幼児らしくたっぷり遊ぶ事である。
◎「乳児から幼児、そして学童へ」と、「育てられる者から育てる者へ」の育ちの連続性に着目。

【Ⅳ　新たな保育所保育指針等の理解のポイント】

◎乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実。
3歳未満児保育のニーズが高まる中で、国内・海外の研究による知見を活かし、乳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上と3つの発達過程で区分した保育の内容が記載。前保育指針は、局長通知から大臣告示となり、13章編成から7章編成へと大綱化した保育の内容の記載であった。昭和40年の保育所保育指針から4回の改定(訂)の変遷も含めて理解することが大切である。
◎非認知能力の重視。（世界的な動き）
◎幼児教育と小学校以上の教育を貫く3つの柱(資質・能力)を明示。（保育所・幼稚園・認定こども園共通）。
◎一貫性のある計画・柔軟性。「保育課程」から「全体的な計画」へ。
◎カリキュラムマネジメント。（多様の中で全職員参加により、計画、実践、評価、改善に向けた取り組み）
◎子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえた健康及び安全の記載の見直し。特に、「災害」についての記載が加わった。
◎保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性。基本的な考え方は前指針を踏襲しているが、より、子育て支援の充実が図られた。「保護者が子育てに喜びを感じられるように」という部分は具体的にどのように取り組むのかを検討することが大切である。
◎職員の資質・専門性の向上。（キャリア アップの提示・研修）
◎改定により変わったこと・変わらなかったこと（環境を通じての保育。遊びを通しての総合的な指導）に着目し理解する。

対談　湘南ケア アンド エデュケーション研究所　所長　増田　まゆみ氏
神戸大学大学院　准教授　北野　幸子氏

より質の高い保育を創造していくためには、組織力を高めることが大切。
個々の得意分野を発揮して総体的な力量を高めていく。リーダーシップを活かせるマネジメントが大切。　～対談より～

【映像を視聴して】 広島　さざなみこども園～ある認定こども園の挑戦Ⅱ（岩波映像）

北野先生(以下：北)
（映像の中の子ども達の姿から）経験主義的保育で、全身で行動的に自分達で問題解決している。
増田先生(以下：増)
子どもの姿から育ちや心の動きを、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連づけて受け止めることが大事ではないか。
北：「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、思い切り身体を動かす「健康」、自分で自分を守る「自立」、友達と一緒に「協同的」に考え、「自然」と関わるダイナミックさなど、生活と遊びの中にたくさん埋め込まれており、保育者の機能、役割、専門性が大事ではないかと考える。
増：（映像の中の）あの木登りは何回も経験している。子どもも保育者も、この木ならこれぐらい揺らしても大丈夫と認識しており、そのことがダイナミックな動きにつながっているのだろう。
北：雨が降っていたことで、葉っぱが滑ることなど、子どもが自分で状況により判断し行動する要素がたくさんあった。そこで制限しなかったり、禁止しなかった保育者の存在は大きいと言えるのではないか。
増：試し、科学的に思考することが育まれており、そうした経験が可能となる保育者の援助がある。管理職の方がこの映像を視聴すると、「安全管理」の側面が強調される。もちろん大事である。それぞれの立場によって同じ状況を目にしたとき、多様な受け止め方がある。しかし、身体全体を使うという経験の機会があることは、子どもの多様な育ちに大きな意味があると考える。
増：文科省の調査で、小学校4、5年生で木登りを経験しないまま大人になる人数が増えているという報告がある。木登りの醍醐味を経験する事は大事だと思う。経験した事のない保育者、保護者が多くなった時どうなるのだろうかと考えてしまう。
北：幼児期に育てたい運動能力として、重心の移動とバランスを養うことは大切である。木登りを禁止にすれば事故は起こらないが、その時に育てたい力が育たないのではないかと考える。
増：（映像の中で転んだ子どもとその周囲にいる子ども達の姿から）あの子は痛い思いをした時に優しくしてもらった経験があったと推察される。自分がしてもらったようにする姿、経験が活かされている。
北：思いやり、優しさのまなざしを向けられた経験の蓄積が、自分の中に優しさや思いやりの気持ちを育む。与えられ与え、教えられ教える、この関係性がきちんと出来ている。
増：子どもと保育者の関係性が豊かな心を育んでいる。保育者が、丁寧に関わることが大事ではないか。

【幼稚園教育要領・保育所保育指針について】

増：幼稚園教育要領の「前文」は今回初めて記載された。世界の動きをキャッチして、前文をこれまでにはない形で提示した。
北：個を尊重し、他者を尊重し、「協働」しながら当事者として形成者となることが大切ではないかと考える。「協働」ということは世界中の指針の中に入ってきている。
増：前回の指針に「協働」ということが初めて登場し、保育指針第7章に入った。とても大

対談　つづき

事なこと。改定後、「協働」も含めて「7つのキーワード」として、出版した。残念ながら「協働」が現場に浸透しきれなかった。今回は期待している。

増：現場で「協働」の具体的な取り組みはどういうことか、地域、家庭、職員とがつながりを持ちながら「協働」することの具体的な意味、実践の多くを発信していただきたい。

北：地域や家庭を巻き込む、単独ではなく繋がりあって子育てしていくために、「協働」は大事なキーワードではないかと考える。

【リーダーシップについて】

増：「協働」による保育のためには、組織力を高めることが大切である。特にリーダーの役割が大きいと言える。

北：リーダーシップ研究はトレンドでもある。リーダーの役割は協働的なものになってきている。トップダウンでなく個々の得意分野を発揮して、総体的な力量を高めていく。その中でのリーダーの役割、リーダーシップを活かせるマネジメントが大事であると考える。

増：キャリアアップ研修の中にもマネジメントの領域がある。今までマネジメントはあまり問われてこなかったが、互いに良さを認め合い、育ち合っていくことが大切であり、その結果、園が組織としての力を付けることになる。

北：舞鶴市ではリーダーも主任も変わってくださった。個々の得意分野を生かすリーダーシップという考えが、トップも個々も変化してきた。言われて行うのでなく、公開保育も手を上げられ、広がりのあるリーダーシップが見られる。

増：舞鶴市ホームページで取り組みを見ていたが、保育現場の様々な思いが具現化し、計画になっているのは素晴らしい。公開保育は全園体制で、継続していって欲しい。ドキュメンテーションも着々と進んで効果が現れている。実習日誌もドキュメンテーションにしている園もある。今後、広がる可能性がある。一方で、連続性に着目し、保育を深く読み解くにはドキュメンテーションだけに頼っていてはいけない。子どもの感性を大事にし、主体としての子どもの育ち、関係性を読み解くことを継続することで保育力が高まっていく。保護者への保育の情報提供は大事であり、情報量、提供のあり方など、さらに検討が必要ではないか。少子高齢社会において、子どもの存在そのものが、社会の未来につながっていく。子どもの育ちを支えていく中核である保育所・幼稚園・認定こども園が地域のセンターとしての役割がますます求められると考える。

6月22日（金）　講義・グループワーク「リーダー向け」を実施しました

神戸大学大学院　准教授　北野　幸子先生によるリーダー向けのドキュメンテーション研修では、園の保育のリーダーである先生や、これから更にドキュメンテーションを学びたいという先生など、たくさんの方々に参加していただきました。

5つのグループ（5人～6人）にわかれて行ったグループワークでは、持参していただいたドキュメンテーション等をもとに、ドキュメンテーションを書いた本人またはその園の先生が進行役となり、グループワークをおこなっていただきました。グループワークを終えての感想では、「自分なりにきちんと書いているつもりだったが、皆さんの意見を聞いて、足りない所やわかりやすさが大事だと気付けた。人の意見を聞くことは大事だと改めて感じた。園でもこのような機会を持ちたい。」「初めて参加したが、子ども達の姿など、なかなか予想できなかった。様々な視点から意見が聞けて良かった。」などの意見が聞かれました。

これまでにも、グループワークの進行などは体験していただく機会もありましたが、今回のように本人または、自園のドキュメンテーションをもとにし、ワークを進行していただくことで、園に持ち帰り保育にフィードバックしていただいたり、園内で研修に取り組んでいただく際のヒントも得ていただけたのではないかと思います。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
昭光保育園
相愛保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
東山保育園
八雲保育園
ルンビニ保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
池内幼稚園
シオン幼稚園
舞鶴幼稚園

※五十音順

【ドキュメンテーションについて】

◎ドキュメンテーションは、子どもの姿や言葉を記録し、遊びや生活の中で何を学び、どんな風に育っているかを可視化する1つの方法としてある。

◎子どもが何に気づき、何に興味を持ち、感じたり、わかったり、働きかけたりしているかを可視化することが大切であると考える。

◎専門職として保護者に発信していくことが大切であり、育ちや経験を語るだけでなく、指針や要領をコメントの中に入れていくとよいと考える。

◎保育者は子守りではなく、専門職であることを記述していくとよいと思われる。

◎「コミュニケーションが育ちます」といった記述について、育つために保育者がプロとしておこなっていることを加えていくとよいと考える。

◎育ちの流れや、個々の子どもの育ちがわかることも大事である。

◎保護者が読み慣れている場合は良いが、文字の量など読みやすさも考慮するとよいと思われる。

【園内研修について】

◎研修は保育の維持、向上のために必要なものである。

◎子どもの言葉を聞き取ったり、気持ちを洞察し、保育の中で起こっていることを保護者や第三者に伝える説明責任がある。

◎研修をするということは、保育者は難しく責任のある仕事だと自負することであると考える。

◎保育の質の向上のためには、個人の責任でなく、組織マネジメントとして研修を位置付ける事が必要であり、さらには研修を受けることを保障する制度が必要とされている。

◎保育者の定着と人材育成の鍵は、リーダーシップであり、過度ではない期待を持って職員と関わっていくことが大切である。また、保育はやりがいのある尊い仕事であり、自己実現が図れる場であることが大切であると考える。

◎研修に対する受け止め方を能動的なものにするためには、保育者自身の自明性や必然性、当事者意識が大切である。

◎研修によって保育者の実践が変化した例を、具体的に言語化、可視化し、評価やフィードバックしていくことが大切であると考える。

平成３０年度　第３号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成30年11月28日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

7月13日　相愛保育園　公開保育を実施しました

今年度も、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただき、以下の目的で公開保育・カンファレンスを実施しています。
◎乳幼児教育ビジョンの基本理念「主体性を育む乳幼児教育」の推進に向け、研修等を通じて、園・校種、公私を越えて共に学び合う。
◎保育を公開し、大学の研究者による指導・助言を受け、実践者も参加者も互いに保育を振り返り、学び合い質の高い乳幼児教育を目指す。

第1回目は、相愛保育園でした。初めての公開保育ということもあり、園の先生方は緊張もされていましたが、とても勉強熱心で、子どもの主体性を育てたい、保育を変えたい、学びたいという思いが伝わってきました。下記のテーマの通り、遊びの時間の工夫や子どもの興味・関心を引き出し、夢中になれる環境、子どもが自分で考え、行動するための保育者の関わりなど、まさに試行錯誤されている様子が感じられました。暑い日ではありましたが、子ども達もそれぞれの遊びを楽しむ姿が見られました。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
昭光保育園
平保育園
タンポポハウス
東山保育園
やまもも保育園
八雲保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
倉梯幼稚園
橘幼稚園
舞鶴幼稚園

【公開保育　研究テーマ】
保育者自身が他園の公開保育等に参加する中で、園の特色も活かしながら、遊びやその時間、環境、主体性を育む保育について学びたいと考えている。子ども達が自分で考え、行動したり、遊びに夢中になったりするためにはどのような環境が必要なのか、どのような関わりをしていくとよいのか、試行錯誤している。
【公開保育の視点】
主体性を育むための時間、環境、遊びや保育者の関わりについて

事前に環境を整えるだけでなく、遊びの途中でもテントや机を移動し環境を整えれば、そこがどろんこ遊びのエリアになる。子どもの興味・関心を見とること、臨機応変に環境は変えていってもよい。　～北野先生カンファレンスより～

【砂場で川作り遊び】 5歳児
砂場で「川をつくろう」と数人の子ども達が集まり、水をバケツで運んでいた。といを使って水を流そうとしたり、船を浮かべたりしていた。

＜北野先生コメント＞
川は、流れがあるとおもしろく、一周できるとなおおもしろいと考える。流したり、浮いたり、発見も増え、さらに探求も深まるのではないか。そのためには、水の量が必要となる。バケツで運ぶのもいいが、子どもと相談して近くにあったホースを持ってくると遊びも変わってくるのではないかと思った。また、流れを作るには、高低をつけるとよい。といをどのように使うといいのか、保育者も一緒になって試してみるとよいと考える。

【泥・水遊び】 3歳児
自分の好きな遊びのところへ駆け出す3歳児。砂場や噴水、水たまりなど自分で場所や遊びを見つけて遊んでいた。

＜北野先生コメント＞
テントも机もないけれど、自分で水たまりを見つけて、泥で黙々と遊び出す子がいた。おもしろいと思う場所や遊びを自分で見つけることはとても大事だと考える。事前に環境を整えるだけでなく、遊びの途中でもテントや机を移動し環境を再構成すれば、そこがどろんこ遊びのエリアに発展していくと思われる。子どもの興味・関心を見とること、臨機応変に環境は変えていくとよいと考える。

【ごっこ遊び】 2歳児
ままごと、車（ブロック）、手先を使った遊び、絵本など、子どもの興味・関心をもとに年齢発達に合わせた環境を準備されていた。子どもがとても集中して遊んでいた。

＜北野先生コメント＞
子どもがイメージを持って遊んでいる。生活経験の模倣の姿がとても多い。フライパンを持って、左手でコンロの火の調節をしながら料理していたり、お皿を洗うのもポンプで洗剤を出して洗っていたり、ひとつひとつの仕草の中に生活のイメージがつながっているのではないか。保育者が考えて環境を整え、考えて関わっていることが感じられた。

【環境】
園庭にはテント、水、砂、スプリンクラー（水）、色水・・・子どもの興味・関心から整えられた環境があった。幼児クラスの廊下には共有の絵本やままごとのコーナーがあり、5歳児の部屋には製作遊びのコーナーが設置されていた。

＜北野先生コメント＞
環境は、子どもの姿をよく見て、子どもと一緒に再構成するとよいと考える。調べたり、比べたりできる探究するコーナーがあるとよいと思う。
5歳児の部屋は、イメージした物をクラスで共有し、部屋全体をダイナミックに活用して、一つの遊び場として発展させるとさらに楽しくなると考える。3歳児の部屋にも製作コーナーを設けると、自分なりのイメージを持って様々な素材に触れることにつながると思われる。

グループワーク

【相愛保育園より】
◎(公開保育を受ける前)いろいろな公開保育に参加させてもらう中で、他の園の子どもと比べて自園の子どもは、「せんせいどうするの―？」など、自主的な自分からという姿がなかった。そこで、保育士が話し合い、まずは環境を変えてみようということに至った。
◎ままごと遊びでは生活にあるものを手作りしてみた。(冷蔵庫、掃除機、洗濯機、レンジなど) 目新しいものがいっぱい並んで、子どもたちも使っていいのか戸惑う姿があった。遊び込むというよりも、玩具を点々とする姿が多かった。物も壊されてしまうし、食べ物も床に散らばりっぱなし、その都度保育士も試行錯誤し、話し合った。
◎遊び方を知らないのでは？と思い、保育士も遊びに加わり、遊び方を知らせるような関わりを心がけるようにした。徐々に年長を中心にジュースなどを見立てて作れるようになったり少しずつ、やりとりができるようになり、子ども同士で役を決められるようになったり、ごっこ遊びになりつつある。
◎次の日も同じ遊びがしたいなーと言うようになり、遊びのつながりも出てきた。しかし、小さい子に教えたり、一緒に遊んだりする関わりの姿はまだなく、一緒の空間にいて同じ遊びをしている。時々会話や関わりがある程度。
◎公開保育に向けての取り組みの中で、「自分たちの保育を見つめ直して環境を保育士同士で毎日考えていろいろ試行錯誤しながら進めていく」ことを心がける中で、子どもたちもケンカなども減り、楽しそうに遊ぶ姿が見られるようになってきた。
◎公開保育がゴールではないので今後も子どもたちに関わって、よりよい保育ができるように勉強していきたいと思う。

【グループワークからの質問～北野先生回答】
Q、3歳児さんの振り返りは必要か？
A、3歳から振り返りはしてほしいと思っている。2歳の子どもの81パーセント。日本の子どもの4千人でデータを取ったところ、言葉の語尾に「ね」と言う言葉をつける発達をしている。「〇〇だったねー、楽しかったねー」など、いわゆる共感と他者に対する関心が出てくる。だからこそ、子どもたちには3年保育を保障したい。3歳児さんには**友達と一緒に共感したり、楽しかったりを感じてほしい**。振り返りも全員でなくても、遊んでいるその場で5,6人、10人ほどでもいいので、一緒におもしろいとか、楽しいとか、自分はしていないけど友達がしていたことに共感して、また今度自分がやってみたいと思ったりするのが集団教育の醍醐味。家庭教育ではなかなかできない。友達と共に学び合い、共感し、経験の幅を広げていき、社会性の幅を広げていく大事なところなので、3歳児の振り返りはしてほしいと思っている。
Q、公開保育の見方と視点
A、これが絶対いい保育と言う唯一無二の保育があるわけではない。園ごとに、またクラスごとに、さらには時期や子どもの様子によって環境は変わる。ただ、公開保育を見る時の視点はある。
◎クラスの中に入った時には、「ままごと」「手指使う工作(ブロックなど)」「微細運動、製作」「絵本」「読んだり調べる、探究するコーナー」などがあるかを実際は見ている。
◎自分の視点を鍛えてみたいと思う方は「エカーズ」や「環境評価スケール」など環境を見る時の指標などが国によってはあるので、そういったものを使って頂くのもよいのではないか。
◎いろいろな掲示物の目線が子どもの目線になっているかも見ている。また、子どもとの相互作用で環境構成がなされているか。物を配置する時も子どもたちに聞いてみてどこに置くのか決めてみてもいいのかもしれない。子どもの状況や学び、好奇心と関連させて構成してほしいと思う。

◎公開保育を見て1番見ているのは子ども！子どもが抑圧されていないか。子どもが笑顔であるか。自分が発揮されているか。それとも我慢させられていないか。そして、子どもがやりたいこと、遊びたいことがあって、遊ばされていて何をしたいか分からなくてフラフラしていないか、自分の好きな遊びやしたいことがわかっているのか。子どもが幸せかどうかを見ている。
Q、自園と比べる時にどう見るとよいのか
A、まず、自分の園と違う所が目に付いてしまう。よくないアプローチの方法をツーリストアプローチと言う。旅行客のようなアプローチ。海外旅行に行く時は、一生に1回ぐらいしか行かないので、初めての所では違いばかりが目に付いてしまう。でも、実はよく知り、学ぶためには、類似性や違いが何によって生じているか、ここは取り入れたい部分だ、これは自分は気をつけて同じようにならないようにしよう、など深みがあり、そこから学んだり、そこと学び合ったりの関係が、理解を進め、共存したり共生したり、一緒に同僚性を発揮してみんなで学び合う、同じ地域性を作っていこうということになる。1回見るだけでは異質性しか見えてこない。そこにある芯の部分や文脈など自分のものとして学ぶことができない。そのため、いろいろな園を見に行ったり、同じ園を何度も見に行くことで、上記にあげたような視点、理解につながっていく。

カンファレンス

幼児期で育みたいのは、楽譜が読めたり、楽器が弾けることよりも、その前の段階の音楽を楽しむ、味わう、音を感じる力である。

【指導案について】
◎保育のカリキュラムは小学校とは違い教科書がない。予定(教科書)通りにする必要はない。指導案に書いた内容を、書いてあるからやらなきゃと、堅く考える必要はないと考える。
◎子どもとの相互作用で保育を創ることが期待される。子どもが、今何に興味を持っていて、何を楽しもうとしているのか、どんな育ちがあるのかを洞察することが望まれる。子どものことを一番よく知っている先生こそが状況を判断し、臨機応変に対応してほしい。ねばならないというよりも、肩の力を抜いて、自分の目と耳を信じて、そして、何よりも、自分たちは保育の資格を持っているプロなんだという自信や自負を持って保育にあたってほしい。

◎3～5歳が無償化になる。子どもの人権を考えると、保育士、幼稚園教諭などの保育専門職こそが質の高い保育を子ども達に提供してほしい。すべての日本の子ども達に保育専門職による3年間の教育を保障したい！子育て支援や就労支援の観点からだけではなく、子どもの教育を受ける権利の保障を具現化したい。
【外部講師について】
◎外国語の外部講師は必ずしも、その国での国語教育の教員免許を持っているわけではない。実際、週に1回ほど英語を学んでも、英会話は上達しない。
◎外部講師を呼んで体育教室をしている園の方が子どもの運動能力が低いといったクリアな結果もある。
◎英語、運動、音楽などは親のコンプレックスや不安を背景に、商業主義的に導入している場合もあり、そのことを危惧している。器械体操や、鉄棒や跳び箱は学習指導要領によると小学校3年生から学ぶ。
◎外部講師ではなく、担任や園の先生こそ保育にあたってほしい。子どもを一番理解している保育者が子どもの教育を実施することが望まれる。
◎音楽の分野では、幼児期で育みたいのは、楽譜が読めたり、楽器が弾けることよりも、その前の段階の音楽を楽しむ、味わう、音を感じる力である。音楽を聴いて感じる力、悲しい感じ、楽しい感じといった音の感受性が、早期から楽器のトレーニングをさせられている子の方が低いとも言われている。
◎まずは、音を楽しむ、リズムにのる、そして大好きな先生と大好きなクラスの友達と遊びながらするということを大切にしてほしい。
◎幼児期にピッチマッチング能力がつくと言われている。ピッチマッチングとは、聞いた音を再現する力である。ドミソで聞くより同じ音階で「おはよう」と歌う音の聞く方が、ピッチマッチングがしやすいことがわかってきている。
男性より女性の声、さらには子どもの声の方が幼児にとって合わせやすいことが分かっている。

7月12日　ドキュメンテーション研修（フレッシュ向け）を実施しました

今年度も、新任の保育者やドキュメンテーションを初めて書く保育者等フレッシュな皆さんを対象に研修を実施しました。

内容は、ドキュメンテーションについて北野先生の講義と、乳児のドキュメンテーションをワークシートの視点にもとづいて見とったり、グループで検討したりしました。また、幼児の事例をもとに3～4人のグループに分かれて、ドキュメンテーションを書くワークをしました。最後には、みんなで書いたドキュメンテーションを見ながら、北野先生の助言をいただき、学び合うことができました。

ドキュメンテーションを見とるには、子どもの発達の理解やその学びを見とる視点が不可欠です。しかし、経験年数の少ない保育者にとっては難しいこともあります。研修を通じて、自分の保育を振り返り、見直しながら、保育の引き出しを増やしていくことが保育者の育成につながります。公私に関係なく、市内の同年代の保育者同士が同僚性を築き、互いに高め合うきっかけになるよう、今後もこのような研修を実施していきたいと思います。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
昭光保育園
平保育園
タンポポハウス
東山保育園
八雲保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
池内幼稚園
倉梯幼稚園
シオン幼稚園
舞鶴幼稚園

講　義

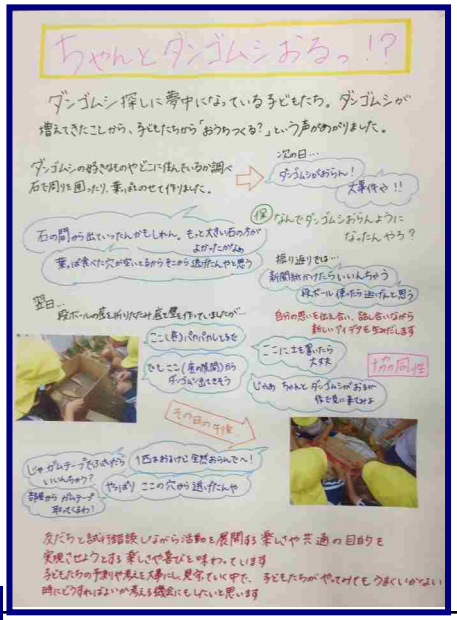
好奇心や探求心、憧れを起点とした子どもと保育者との相互作用を重視した保育を可視化していく。
他者の気づきが自分の気づきになるように可視化する。
保育者の関わりや意図的な環境を可視化する。

【ドキュメンテーションとは・・・】
◎ドキュメンテーションの「tion」とは行為を指す言葉である。
◎ドキュメンテーションとは、プロジェクト型保育の記録であり、可視化のひとつである。
◎子ども中心の生活や遊びを捉えて書いていくことが大切になる。
◎子ども中心の生活や遊びを捉えるということは、保育者が育ってほしい子どもの姿をしっかりねらいとして持つことが大切である。そのためには、子どもは今何に興味を持っているんだろうという細やかな視点を持つことが重要になる。
◎何に興味を持っているのか、何に感心があるのか、あるテーマについてとことんこだわることができるようになって保育が深まっていく。
疑問⇒試行錯誤⇒創意工夫（その支援）⇒問題解決の学び
◎**トピックス**とは、子どもの生活と関連の濃いもの自然との関わりが濃いものがよい。
◎**プロジェクトアプローチ（方法）**とは、一人一人の子どもに対し保育者が応答的に関わることである。人・物・環境との相互作用でもある。
◎個別から集合性へと発達していく中で 子どもが何に気づいて何に興味を持っているのか、遊びの意味と保育者の役割をしっかりと捉えていく必要がある。
◎他者の気づきを自分（子ども自身）の気付づきにつなげていけるように関わる。
【何を可視化するのか】
◎事実・解釈・学びのプロセスを可視化する。
◎好奇心や探求心、憧れを起点とした子どもと保育者との相互作用を重視した保育を可視化していく。
◎他者の気づきが自分の気づきになるように可視化する。
◎保育者の関わりや意図的な環境を可視化する。
◎**能動的受容**・・・待っているだけだはなくて意図があって見守ていることを伝える。
◎**教育的見守り**・・〇〇したのは誰？保育者なのか？子どもなのか？その関わりを書いていく。
◎5領域・10の姿（説明言語）を使って書くとわかりやすい。
◎保護者にも育ちの見通しや発達の視点、学びの見通しを知ってもらう。

グループワーク

どのドキュメンテーションも同じものはなく、それぞれの良さが感じられるものに仕上がりました。同じ事例であっても、その見とり方、書き方によって受ける印象は違ってきます。

保育の中の子どもの育ちや学びが見えるドキュメンテーションを目指して、これからも学び合っていきましょう。



【タイトル】
「〇〇遊び」などの活動名ではなく、子どもの言葉や子どもの思いの入ったタイトルの方がインパクトがあります。

タイトル〇〇〇
きっかけ
＊＊＊

平成30年度　第４号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年1月21日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

H30年度　保幼小連携活動研修会の流れ

～全ての小学校区で連携活動のさらなる充実を図る～

第1回　8月17日(金)　指導案作成研修会　計　画

↓

第2回　11月6日(火)　公開授業・保育研究会　実　践

（新舞鶴小学校、やまもも保育園、昭光保育園、シオン幼稚園）

↓

第3回　1月29日(火)　実践交流会　評　価

参加園/校

岡田保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	福井小学校
さくら保育園	池内幼稚園	余内小学校	三笠小学校
昭光保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	シオン幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
平保育園	志楽幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
タンポポハウス	橘幼稚園	倉梯小学校	与保呂小学校
なかすじ保育園	ひばり幼稚園	倉梯第二小学校	
東山保育園	三鶴幼稚園	志楽小学校	（50音順）
八雲保育園	舞鶴幼稚園	新舞鶴小学校	
やまもも保育園		高野小学校	
ルンビニ保育園		中筋小学校	
うみべのもり保育所		中舞鶴小学校	
中保育所			

昨年度に引き続き、舞鶴市教育委員会と合同で保幼小連携研修を実施しました。この研修では、協力園・校の小学校1、2年生担任と保育所・幼稚園の5歳児担任が1年を通じて（3回実施）一緒に学ぶ形で研修を実施しています。（上記図を参照）

第1回目は、グループワークにおいて、協力園・校ごとに昨年の連携活動の実践や反省を踏まえた今年度の年間計画に基づき、連携活動の指導案を作成しました。この指導案をもとに実践、記録、省察することが今年度の研修となっています。

8月17日　保幼小連携研修を実施しました

講　義　「学びの見える交流づくり」　講師：鳴門教育大学大学院教授　木下光二先生

カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである。　～木下先生　講義より～

＜指導案作成について＞

◎年間計画を持ち寄って研修に参加されていてよい。

◎カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである。

◎昨年の実践を踏まえて今年の評価、改善を図ることが大事である。

＜連携活動について＞

◎“**自然体”いい言葉。連携活動はありのままでよい。普段しないことをするから時間がかかるし、大変になり活動が続かない。**

◎連携活動のはじめに、小学校側からの挨拶や進行をしているところがある。いけなくはないが短くし、余った時間を活動に回すと仲良くなる。時間の無駄がなくなるように考える。

◎決まった・同じ活動をせずに改善したらよい。大きく変えることで何かが生まれてくるかもしれない。

◎一緒に活動し、一緒に遊び、一緒に作ることで互恵性になる。

◎いつもとは違う集団と交わることは大切である。幼児期以降に違う集団と交わる力をつけておくと人生の大事な宝物になる。

◎幼児期を幼児期として過ごしているか。幼児期にふさわしい保育・環境がそれぞれの園にあるか。保育者一人一人が変えられることがある。

◎自分から遊びを見つけて遊び込める子になって欲しい。**遊び込める子は学び込める子になる。**

◎何を学び、何が育ったかが大事である。そして、遊びと学びの可視化することが大事である。まずは記録を継続して取る。

◎連携の交流活動をしながらカリキュラムの連続性を図ることが接続になる。

◎カリキュラムを作ることだけが目的にならないようにしたい。保幼小がしっかり交わってそこで見えた学びがカリキュラムになっていくことが重要である。

◎互恵性を考えて、両方が夢中になる活動になるとよい。

【お店屋さんの活動】

◎小学校側だけがお店を出すだけではイベントで終わる。幼児も一緒にお店に出すものを作ることでコミュニケーションが生まれる。日々のコミュニケーションこそ大事である。小学生だけが一生懸命作っても、幼児にとっての互恵性が少ない。

【いもの活動】

◎算数の単元（3つの数の計算）に取り入れたことがある。収穫して食べる活動もよいが、ちょっとの工夫で様々な単元を入れることができる。

【かるたの活動】

◎ただ見つけるのだけではなく、学校の宝物を見つけ、見つけたもので俳句を作ったこともある。1つだけでなく、作れるだけ作ることにより、様々な視点からその宝物を見れる。1学期にすることでかるたづくりを通してひらがなを覚えることもできる。

◎厚紙を切って読み札と取り札を作り、みんなで取り合うことで気づきの共有になる。

【秋のフェスティバルの活動】

◎5歳児が入場する時に2年生からピアニカ演奏のおもてなしをしていたそうだが、自然体で会を進めることが大切である。

◎教員が手を出しすぎないよう、子どもたちが主体的に考えたことを会に活かしていく。

◎5歳児の緊張をほぐすため、また、会をもっとよくするためにゲームをしてから活動を深める。

＜学習指導要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針等の改訂について＞

◎4月から要領と指針は変わったが、保育をどう変えたかが一番大事である。

◎小学校は授業改善が求められている。2年後の全面実施に向けて、具体的にどのように授業を変えるのか。変化を語れないと変わらない。

◎保育においても小学校においても変えることのイメージを具体的に持つことが大事である。

◎小学校は幼児教育から“環境を活かす”ことを、幼児教育は小学校から“客観的に学びを捉えて、スモールステップで積み上げる”ことを互いに学ぶとよい。

◎今回の学習指導要領等の改定に向けての2つのキーワード

1. AL・・・アクティブラーニング
   幼児教育は毎日がアクティブラーニング。文部科学省は“主体的で対話的で深い学び”に変えた。
2. CM・・・カリキュラムマネージメント
   PDCAのCAがすごく大事。カリキュラムの連続性が求められている。年間計画は一つのカリキュラムである。それを基に昨年の反省を活かして今年があるのが、カリキュラムマネジメントである

11月6日　連携活動　公開授業・保育を実施しました

やまもも保育園、シオン幼稚園、新舞鶴小学校で保幼小連活動公開保育・授業を実施しました。

今年度の連携活動は、1回目「シャボン玉あそび」、2回目「秋みつけ」の活動を経て3回目となり、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で作成した「あきのなかよしかいをしよう」の連携プランをもとに連携活動が行われました。

この研修で計画した連携活動プランに基づく活動は市内のどの協力園・校も実施することとなっており、参加してくださった教員や保育者の皆さんにとって大変学ぶことが多い内容となりました。

公開保育・授業の後はカンファレンスを行い、鳴門教育大学大学院教授　木下光二先生にご指導をいただきました。

参加園/校

岡田保育園	西乳児保育所	倉梯第二小学校
永福保育園	シオン幼稚園	新舞鶴小学校
さくら保育園	三鶴幼稚園	志楽小学校
昭光保育園	舞鶴幼稚園	高野小学校
相愛保育園		中筋小学校
タンポポハウス	朝来小学校	中舞鶴小学校
なかすじ保育園	余内小学校	福井小学校
八雲保育園	池内小学校	明倫小学校
やまもも保育園	大浦小学校	由良川小学校
ルンビニ保育園	岡田小学校	（50音順）
うみべのもり保育所	倉梯小学校	
中保育所		

公開授業・保育

［日　時］ 平成30年11月6日（火）10:00～11:30
［場　所］ 新舞鶴小学校
新舞鶴小学校1年1組33名・シオン幼稚園27名 （多目的ホール）
新舞鶴小学校1年3組33名・やまもも保育園15名（生活科ルーム）
新舞鶴小学校1年2組33名・昭光保育園23名 （10月30日実施）
［内　容］ あきのなかよしかいをしよう
［ねらい］
1年生
〇集めた自然物の中から使ってみたいものを選び、試したり工夫したりしながら、材料の特徴を生かしたおもちゃや楽器を作る。
〇みんなが楽しめるように、遊びのルールや約束を工夫する。
〇5歳児との交流を一層深め、人と関わる楽しさを感じ、思いやりの気持ちを育む。また、自分の取り組み方を振り返ることで、自分自身の成長に気付く。

5歳児
〇集めた自然物の中から使ってみたい材料を選び、作る楽しさに気付く。
〇1年生との交流を深め、人と関わる楽しさを感じたり、小学校へのあこがれの気持ちを育んだりする。
〇遊びのルールや約束を守り、友達と仲よく遊ぶ。
［公開授業・保育の様子］
10月に連携園・校と出かけた「秋みつけ」で見つけた木の実や葉っぱを使って、おもちゃ作りを各園・校で楽しんだ。1年生と5歳児がそれぞれ楽しんだおもちゃ作り、遊びを持ちより、コーナーを担当し、自分達で当番を交代しながら活動していた。1年生が教えたり手伝ったりする姿だけでなく、5歳児のコーナーでは5歳児が1年生に教えている姿も見られた。

振り返りの中で、子どもが工夫したことや気付いたことを伝え合い、学びを共有する場面もあった。

カンファレンス

幼児期の本質は個の育ち個の学び、生活科の本質は気付き発見が本質である
～木下先生　カンファレンスより～

【1年生担任より】
◎学年全体で取り組むが2組と昭光保育園は10月30日に実施し、そのことから学び、取り組むことができ複数学級の良さを感じた。
◎各コーナーやカード作り等子どもの思いで取り組むことができよかった。
◎5歳児と一緒ということでコーナー作りや遊び方を工夫する姿や交流する事で難しいところに気付き修正する姿も見られた。
◎子どもの様子から内容を変更して取り組んだことで遊びが発展した。
◎子どもたち同士については、一緒に作っている子どもたちの会話等、もっと交流できればよかった。
【5歳児担任より】
◎今回は3回目で子どもたちも慣れ、1年生に教えてもらい喜んだり、1年生に教えたりする姿も見られよかった。
◎1年生に優しくしてもらったことで、小学校への憧れの気持ちを持つことができた。
【木下先生より】
◎幼児期は個の育ち個の学び、生活科は気付き発見が本質である。
◎連携活動により、一人一人がどう育っているのか、何を学んでいるのかが大事である。
◎誰のどの学びが素敵だったかをよく見る。
◎振り返りで「〇〇君すごかったね」と先生が伝えることで子どもたちのモデルになっていく。
◎生活科は楽しくという導入だけではなく気付きが大事。前の連携活動で素敵な気付きがあったはず、先生がそれを導入で伝えるとよい。
◎振り返りでは、先生が今日の一番の気付きを伝える。
◎何をするか、どんな準備が必要かに目がいきがち、準備は必要ない普段の姿でよい。
◎子どもたちが必要な物は自分で集めればよい。
◎子どもの活動の時間を十分に持ってほしい。
◎コーナーではなく、まん中に材料を置くとどうなるか。子どもから作りたいと遊び出すと、どんな遊びが生まれるのか見ていくとよい。
◎生活科では、どんな子どもに育て、何を学んでいるか考え、自分で準備して自分で遊ぶ子に育てる。子どもは夢中になったらどんな材料も使う。
◎先生たちは“誰の、どの”という子どもの姿で語っていく。
◎幼児期の本質、生活科の本質は何なのかよく考えて、取り組んでいく。

平成３０年度　第５号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年2月16日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

9月19日　昭光保育園　公開保育を実施しました

昭光保育園において、初めての公開保育を実施し、神戸大学大学院　北野幸子先生にご指導いただきました。

木のぬくもりが感じられる園舎や自然豊かな園庭で、子ども達は自分の好きな遊びを夢中になって楽しむ姿が見られました。

下記のテーマにもありますように、子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめるように、子どもの興味や関心をもとにした環境の工夫や、遊びを広げていくための保育者の関わりなど、園内で何度も話し合われ、試行錯誤されている様子が伝わってきました。

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
相愛保育園	朝来幼稚園
平保育園	倉梯幼稚園
タンポポハウス	橘幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
八雲保育園	※50音順
ルンビニ保育園	

【公開保育　研究テーマ】
子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめる保育に変えていくためには何をどうすればいいか、迷いながら、環境や保育者の関わりについて園内で話し合ってきた。環境を変えることで子どもの遊びが変化し、その中で保育者はどう子どもに関わるのか、保育者同士で共有しながら試行錯誤している。

【公開保育の視点】
子どもの興味・関心をもとにした環境構成
遊びを広げていくための保育者の関わり

何かを作ることが目的にならないように、作ることを通して何を育てるのかが大切ではないかと考える
～北野先生コメントより～

【製作遊び】 4歳児
お店屋さんごっこの食べ物作りでは、どうしたらより本物らしく見えるのか、おいしそうに見えるのかなどを、友だちと相談したり、自分なりに考え、工夫しながら作っている姿が見られました。完成した品物を小さい子達に見せにいくなど、異年齢の交流も見られました。

＜北野先生コメント＞
・出来た作品を1歳児クラスに見せに行くなど、異年齢との関わりが見られとてもよかった。
・何かを作ることが目的にならないように、作ることを通して何を育てるのかが大切ではないかと考える。

【園庭遊び】 3歳児
第2園庭では、豊かな自然環境の中で思いきり体を動かして遊んだり、虫探しを楽しむ姿が見られました。また、砂場では友だちや保育者とやりとりをしながら、ごちそう作りを楽しんでいる子ども達の姿も見られました。

＜北野先生コメント＞
・自然が豊かで草花がたくさんあるので、摘んで活用し、何かの作品につなげてみるのもよいかもしれない。
・草花や水を用意し、色水へと発展させると面白いかもしれない。作ったものを飾れる棚などを用意することで、ごっこ遊びへの展開にもなると思われる。
・3歳児だけでなく、年長児や年中児などがいたら異年齢の関わりもでき、虫探しもしやすいのではないかと感じた。

【泥んこ遊び】 2歳児
園庭では泥の感触を楽しんだり、水の心地よさを感じながら、夢中になって遊ぶ姿が見られました。また、泥んこを「お団子」や「ごはん」に見立てて、「どうぞ」と友だちにごちそうするなど、関わりながら遊ぶ姿も見られました。

＜北野先生コメント＞
・乳児のときに、砂場で団子を作ったり、穴を掘ったりする経験をすることで、4、5歳で造形活動をおこなう上での力となると考える。
・園庭はフラットではなく、でこぼこの方が全身を刺激されてよいと考える。

グループワーク

【グループワーク報告】
◎5歳児の片栗粉遊びでは、グループごとに固さを変えたり、「もっと片栗粉入れたら？」と子どもが考えたり工夫する姿が見られた。
◎子どもを認めてあげる保育者の声かけが大事だと感じた。
◎4歳児の子どもが、作りたいものが自分ではうまく作れず、保育者に頼りに行くことがあった。しかし、保育者は作り方をすぐに教えず、「〇〇くんが上手に作っていたよ？」と言い、子ども同士のつながりを大事にしていたのが印象的だった。

【グループワークからの質問～園回答～】
（質問）
4歳児の遊びの場面で、1歳児に作品を見せに行く姿があったが、普段から異年齢での関わりはあるのか？
（園回答）
1歳児クラスの子どもと兄弟が多いということもあり、普段から関わって遊ぶようにしている。
（質問）
4歳児の遊びの話し合いはどのように展開していったのか？
（園回答）
まずは散歩で商店街に行った。その後お店屋さんごっこに展開させるため、保育者が意図的に関わり「お店屋さん何したい？」と聞くようにした。
（質問）
これから保育者が予想している保育、予定している保育は？
（園回答）
今後も異年齢の関わりをしていきたい。子ども達からも作品を売りに行ったり、看板を作りたいとの声が上がっている。

溝邊和成先生　カンファレンス

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授　溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。
こうした保育が小学校にどのようにつながっていくのか、と言う視点でもご意見をいただきました。

【5歳児クラスの様子から】
◎集まりの前に保育者と子どもで一緒に遊びの準備をしていたが、自分達で準備をすることは、これからの活動を意識付けていくためによい。物がどこにあるかは自分達で片付けているから分かるのであり、片付けることの大切さに気付くことにもつながっていくのではないか。
◎片栗粉遊びでは、子ども達の会話の中で「ドロドロ」「プニプニ」など、どのようなものをどう作るかと言うことが、共通言語になっていた。1人の子どもが「プニズニになった」という造語を作っていた。体験が言葉を豊かにしており、遊びの経験を通して、言葉の獲得へとつながっていくと考える。
◎子ども達が水や、片栗粉の量などを紙にメモしていた。感覚的な体験から、数量的なものへと変化している様子が伺える。小学校になっても体験ベースから理解がすすむため、後の計量していく手立てとなっていくと感じた。
◎保育者の関わりとして、子どもに作り方を聞かれても、すぐに教えず「できた子に聞いてみたら？」と子ども同士が教え合ったり、考えられる関係作りをしていたのがよかった。
◎片栗粉を混ぜるのに揉めている姿があったが、このような体験により、友だちとぶつかった時などの対処の方法を学ぶことができるので、避けないで欲しい体験であると感じた。
◎振り返りでは、子どもの思い、発言したことをしっかり聞き、しっかり受け止め、子ども達へと伝えていくようにすることが大切である。
◎より体験豊かになるように、子どもの目線で保育室を見てみることで、環境作りのヒントになると考える。

北野幸子先生　カンファレンス

◎保育に唯一無二はなく、ゴールはないと考える。大事なのは保育を変えたい、変わろうという気持ちがあり、子どもをよりよく知ろうとしているか、ということだと思う。

◎一番の評価者は子どもであり、子どもが主体の保育になっているか、子どもの興味・関心を中心としているかが大事ではないかと考える。

【環境】
◎保育室には、読んだり、書いたり、調べたりできるコーナーや、長さ、重さ、大きさがはかれたり、比べたりできる環境があるとよいと考える。
◎製作コーナーの素材については、豊かさが大切であり種類はバラエティがある方がよいと考える。
◎描画については、家庭での描画経験も影響してくると思われる。「木は茶色」などという固定概念を持たないように、様々な色の用意をすることが大切だと考える。発達を考え、どういう素材が適しているのか、クレパスなのか絵具にするのかということも考慮していくことが大切ではないかと感じた。
◎砂場には、カップ・ジョウロ・すりこぎ・泡だて器・机や台などもあるとよい。量は限定してもよいが、種類は豊富な方がよいと思われる。
◎リトミックについては、例えば、『うさぎはこの動き』と決めてしまわなくてもよいと考える。うさぎに変身するなら、子どもが実際にうさぎに触れたり、見たりしたことがあるのかが大切であり、子どもがうさぎを理解したうえで、リトミックにつなげていくことが大切ではないかと考える。

【子どもへの関わり】
◎過干渉だと「〇〇していい？」と聞くことが多くなる。保育者が意図的に、「そんなの聞かなくていいよ」と返していくことが大切ではないかと思われる。
◎(0歳児)泣くことは悪いことではないので、泣かさないようにするのではなく、子どもが泣いていたら「何で泣いているの？」「どうしたの？」と泣いている理由を共感することが大切ではないかと考える。

【振り返り】
◎4、5歳児の『振り返り』では、子ども同士が思いを伝えられるようにすることが大切であり、保育者が入り過ぎないようにするとよいと思われる。
◎3歳児から『振り返り』をすることが望ましいと思うが、3歳児は具体性がないと難しいため、遊んだその場で行うのがよいと思われる。実物を見ながら振り返ることで、関心度や集中力も高まるのではないか。リアリティーや話したい気持ちを大事にしていくことが大切ではないかと考える。

9月18日ドキュメンテーション研修を実施しました

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれてグループワークをおこないました。前半には、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議をおこないました。後半では、乳児・幼児それぞれの事例をもとに、ドキュメンテーションを書くワークをおこないました。

北野先生からは、協議していただいたドキュメンテーションの一つ一つについて助言をいただき、学び合いました。ドキュメンテーションを提供してくださった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。ドキュメンテーションを提供してくださった先生方ありがとうございました。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
相愛保育園
平保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
東山保育園
八雲保育園
やまもも保育園
ルンビニ保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
池内幼稚園
舞鶴幼稚園

※50音順

子どもが何をおもしろがって何に気付いて何を試しているかをしっかり見ることが大切であると考える

【0歳児ドキュメンテーション：泡はどこ？】

◎0、1歳児のドキュメンテーションを書く時のキーワードは安心・安定・居心地のよさだと考える。養護の部分を保護者に伝えていくとよいと思われる。

◎物に気付き『おもしろいな』と興味を持ち、与えられた経験の中で自分から触ってみようとする姿は意欲の芽生えである。そしてつかんだり手につけたり展開していく姿に子どもの主体があると考える。

◎水に泡をつけて『泡はどこにあるかな』と探す場面は大事なキーワードといえる。子どもが気付いたこと、泡が消えておもしろいと思ったこと、さらにはどこにいったのかと探したことなど、物に気付いておもしろさを発見して探すといった探究心が育まれるのが1歳前後であると考える。

◎物に気付く、物とかかわる、楽しむという場面は0、1歳らしい姿であり、そこを強調するとよいと思われる。

◎感触を明記したことに加えて気付くこと、探究心の部分がキーワードとして入るとよいと思われる。

◎子どもが探求できるよう環境構成や教材の準備をしていることや保育者の援助の工夫を書いていくとよいと考える。

【2歳児ドキュメンテーション：うんとこしょ　どっこいしょ】

◎保育所保育指針にもあるように、『繰り返しのある言葉』や『言葉のリズムを楽しむ』という部分は1歳児以上3歳未満の発達の姿でもある。

◎リズムやイメージの共有に加え、行為についての協同性があるとよいと考える。たとえば、模倣などは行為、協同であり、その記述があるとさらに、わかりやすくなるのではないか。

◎『ストーリーがあるわけではありませんが・・』と書くと不足の書き方と捉えてしまいがちである。保護者は結果主義的であり、『まだ～できない』に視点がいってしまうので書き方には配慮が必要だと考える。

◎先の見通しを書くことは大事だが、今の育ち、援助の工夫、環境構成したことを意識して書くようにするとよいと感じた。

【2歳児ドキュメンテーション：影って不思議】

◎自分の姿が影になっていることに気付く姿は、自我の芽生えの時期の2歳児だからこそ自分の投影がおもしろいと感じた。

◎子どもが何をおもしろがって、何に気付いて何を試しているかをしっかり見ることが大切だと考える。

◎まとめのところで『気付く』『試行錯誤』のキーワードを入れると、子どもがおもしろがっていることや、気付いていることを保護者に理解してもらえるのではないかと考える。

◎この時期はゆっくり進んでよい時期であるので、まずは自分の行為、自己、次に他者、他の事物へと広げていくとよいと考える。

【3歳児ドキュメンテーション：樋遊び】

◎子どもと子どものコミュニケーションの発展を促す援助がなされていると感じた。保育者の援助を遠慮せず書いていくとよいのではないかと考える。

◎2歳児の時期に共感の言葉『楽しかったね』『～ね』をしっかり身につけてからの3歳児の時期は、ごっこ遊びの宝庫であり、もっと楽しく、おもしろく、新しいことやってみたい意欲がぐっと伸びる時期と考える。個人差により個から抜け出せない子どももいるため、子ども同士の対話を促す援助や、さらなる活動が発展していくことを促す言葉がけ『もう1回してみよう』などが大事ではないかと考える。

◎好きなことを友だちと夢中になって遊ぶことにより、遊びを発展させていく大事な時期と考えている。

◎子どもとの相互作用の中で子どもの興味・関心を拾いながら、さらなる環境構成や教材準備をし、子どもと一緒に発展させています、ということを書いてくとよいと考える。

【5歳児ドキュメンテーション：かいぞくせん作り】

◎こんな風にお互いに気付き合えるようこんな言葉がけをした、子ども同士をつなぐ言葉がけをした、など保育者の援助の工夫、環境構成についてもっと保護者に伝えるとよいと感じた。

◎『～しやすいように』『～を用意し』『～のために』など、理由があって言葉がけをした、準備や環境構成をしたと一行入れるだけで教育的意図やプロとしての援助の工夫、環境構成などが保護者に伝わっていくと考える。

◎子ども達の創意工夫を広げて対話的で深い学びにつながっているなど、ちょっとしたキーワードとして入れてもよいのではないかと考える。

◎『これでいいかな』など、ゆさぶりの質問も大事だと考える。

◎『考える姿が見られました』という記述には、『～のように』『こんな会話もあって』など具体的に書くと臨場感が増すと考える。

◎考察には意図的環境の構成や子ども同士をつなげる言葉がけ、発展につながるような質問をしました、などを書いていくとよいと思われる。

例）言葉がけの工夫を行い、話し合いの場面を設定することによって、個々の子どもの創意工夫をお互い気付けるよう促しました。その結果、こんな姿が見られました、～な活動が促されました。など

◎保育者の援助や工夫がありこんな効果があった、ということを保護者に伝える事が大切であると考える。

保育者の援助や工夫があり、こんな効果があった、ということを保護者に伝える事が大切であると考える

平成３０年度　第６号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年2月16日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

倉梯幼稚園　研究指定園研修

平成30年4月より新保育所保育指針、新幼稚園教育要領が施行され、新たな乳幼児教育の方向性が示されました。指針・要領について、理解を深め、実践にいかしていくために、今年度は、倉梯幼稚園を研究園に指定し、園内研修や公開保育等を実施するとともに、市内の保育者・教員が互いに学び合う研修の機会を創出しました。

倉梯幼稚園では、研究指定園として、子どもを主体とした遊びや活動、そのための環境構成、子どもの姿を見とるための記録等の園内研修を通じて、幼稚園教育要領に示された新たな乳幼児教育を学び、実践に取り組んでいます。

指定園研究につきましては、神代　千恵子先生（幼児教育アドバイザー・元公立幼稚園長・元養成校講師）にご指導いただきました。

研究の方法と経過

【研究の方法】

（1）園内研修・研究
　①講師による指導
　　・保育参観
　　・保育カンファレンス
　　・記録について
　②乳幼児教育コーディネーターによる園内研修
　　・「子どもを主体とした保育」について
　　～新幼稚園教育要領より～
　　・記録について
（2）公開保育
　　・当日の指導案の作成
　　・グループワーク・カンファレンス

【経　過】

日程	内容	講師他
5月14日	○「子どもを主体とした保育」について ～新幼稚園教育要領より～	乳幼児教育コーディネーター
6月8日	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師　神代　千恵子先生
6月15日	○記録について	乳幼児教育コーディネーター
8月3日	○保育参観 ○保育カンファレンス ○各クラスの記録について	講師　神代　千恵子先生
10月12日	○保育カンファレンス ○公開保育の指導案について	講師　神代　千恵子先生
10月26日	○公開保育・グループワーク、カンファレンス	講師　北野　幸子　先生 神代　千恵子　先生
12月7日	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師　神代　千恵子　先生
12月14日	○研究指定園公開保育の振り返り	乳幼児教育コーディネーター

実践研究まとめ
～講師による指導・助言より～

1．子どもの主体性を育む遊び・活動

【環　境】

◎玩具や教材の置き方については、発達や子どもの興味・関心をもとに考えて整えていき、「ねらい」や「意図」を持ち、量にも配慮していく。

・例えば、「お店屋さんごっこやままごとなど、3、4、5歳児が全く同じ遊び、同じ玩具を置くのではなく、年齢発達に応じて、どこに『ねらい』があるのかを考え環境を構成することが大切。

・子どもが遊ばなくなってきた時には、なぜ遊びが停滞するのか、子どもの様子を見ながら環境を足したり、一旦片付けるなどしてみる。全く別のものにする場合、保育者が一方的に押しつけるのでなく、「こんなのがあるよ」「これはどう？」と提案することを大事にしていく。物がありすぎるのもよくないため、加減しながら環境を整えるようにしていく。

・ラQやブロックなどで子どもが作った物を置けるスペースと、作りかけのものを置くスペースは別にする。

・木片遊びは、何のために金槌で釘を打つのかという必然性を持てるよう、「木ってどうやってくっつけるのかな～？」「木と木をくっつけて何をつくるの？」と子ども達に問いかけていく。金槌を使う必然性を感じ、期待を持つことで遊びが楽しくなっていく。

・木片遊びの材料としては、様々な大きさや形の木を用意するようにする。力が入りやすいように、地面や床に板などを置いた上で金槌を使えるよう環境を整えていく。

・製作遊び等は、「何がいるかな？」と子どもと一緒に素材や道具を考えたい。保育者は子どもの遊びの方向を予測しながら準備をする（木、段ボール、箱等）

例）段ボールでのお家作り→ごっこ遊び→食べ物作りなどへ発展してもよい。

・（3歳児は）年齢発達から、「○○したい」「もっとしたい」と興味・関心を持ち、十分に対象に関わる経験ができるよう、時間や場所の保障をしていくと共に、繰り返し試したり、遊んだりできるような素材や道具などを工夫していく。

・静と動の遊びのエリアを仕切るためのパーテーションは、常に閉めておくのでなく、その日の意図や、子どもの様子に合わせて閉めたり開けたりしていく。

実践研究まとめ　つづき
～講師による指導・助言より～

きっかけやスタートは、子どもが主体であり、子どもの興味や関心を見逃さないことを大事にしていく

【保育者の関わり】

◎子どもの遊びの中から興味・関心をさぐり、子どもと話し合いながら、子どもがしたい、やりたいと思えるように、一緒に生活を作っていくことを大切にする。

・どんな子どもに育ってほしいか、保育者が大事に思っているところは何かなど、年齢に応じた願いを持って関わっていくことを大切にする。

・色々な遊びをする中で、一人一人の子どもがどんな事をしているのか、何に興味を持っているかをしっかりと見ていくことを大切にすることが重要。

・なぜ、その遊びをしているのか、子どもの興味・関心を見極めていく。

例）色水遊びなどは、チューリップの花びらを集めることや球根を抜く経験から、花びらを水に浮かべたりする中で、色が出てくることに気付いたり、子どもがやってみたいと思う仕掛けをしていく。

例）段ボールを使った製作では、段ボールカッターを使うことが始まりではあるが、なぜ、基地になったのかということを子どもに尋ねていく。また、「段ボールが固い時は、真ん中にカッターを刺したらいい」ということに気付いている子がいたら、振り返りで取り上げ「〇〇くんおもしろいことしてたよね」「どうしてしたの？」と聞いていき、子どもがしていることをまわりの子ども達にも伝えていく。

・保育者が前に出るのではなく、子どもの意見や考えを引き出しながら子ども同士の気付きや共感を大切にしながら共に生活を作っていく。

・言葉かけは、まずは子どもに聞いてみる「尋ねる」言葉を大切にする。

・子どもが自分達ですすめていける、自分達でやっていると思えるようにやっていることを受け入れ励ましながら、子ども達の考えで進められるようにする。「どうしたい？」「いい考えだね」と子どもの思いを引き出すように援助をしていく。

【『振り返り』について】

◎人と関わることや、友だちと遊ぶ楽しさを振り返りの中で共有することを大切にする。

・「これで遊びました」と、子どもが感想を言うだけでなく、自分の思ったことを話す時間にしていく。人と関わることや、友だちと遊ぶ楽しさを振り返りの中で共有することを大切にする。

・「今から振り返りをします」でなく、「今日何だか楽しそうだったね。みんなに教え合いっこしようか」等と言って始める。遊んでいる時に、「いい考えだね。皆に教えてあげてね」と声をかけていき、「誰としたの？」「〇〇君も教えて」「見てた人教えて」等と、子ども自身が話すことで広がっていくようにしていく。

・保育者が言わせたいことを意図して言わせすぎるのは保育者主導になってしまう。立派な事をした子だけが言うのでなく、どんなことでも「すごかったね」「いいことを発見したね」と受け止め、子どもに返していくと、子どもの声も出てくる。短いのはダメ、そんな言い方はダメ、といった印象を与えないようにしていき、子ども自身が、話せてよかった、友達の話を聞いておもしろかったと思うことを大切にしていくようにする。

「子どもをよく見る」「自分の反省をしっかりする」ことが大切であり、記録をつけることで関わりや環境についての方向性が見えてくる

2. 記録について

保育を記録することは、一人一人の子どもの姿をよく見ることにつながり、子どもの興味や関心がより見えるようになる。

また、保育者自身の保育を振り返る機会となり、課題や次への保育の方向性を見い出すことにもつながる。

以上の事をふまえて、記録について取り組んだ。

・遊びの経過が書いてあると様子はよくわかるが、子どもが試したり工夫したり考えたり発見したりしている姿などを、焦点を絞って書いていくことも大切である。

例）『こんな風に試していた』『（大きい、小さいなど）を発見できて嬉しかった』など。

・発達に合った遊びを考えていくことが大切であり、誰が何をしようとしているかを良く見ていくことが大切である。『何かができた』ということなどを、あえて形に残そうとしなくてもよい。

・子ども一人一人の育ちや学びを書いていくことも大切である。

例）始めに『A君は元々こんな子である』と言うことを書いたうえで、得意なことや好きなことを通して自信を持って活動しているということを書いていくと、A君の育ちがよくわかるようになる。また、『B君のさりげないアドバイスも素敵である』という他児との関わりの部分も書いていくとよい。

・『こういう風に育った』ということだけでなく、保育者の思いも入れていくようにするとよい。どんな気持ちで子どもを育てているのか、子どもに対する思いを入れることで、子どもを大事にしているということを発信していくことが大切である。

10月26日　研究指定園　公開保育・グループワーク、カンファレンスを実施しました

【公開保育研究テーマ】
　倉梯幼稚園では、研究指定園として、子どもを主体とした遊びや活動、そのための環境構成、子どもの姿を見とるための記録等の園内研修を通じて、幼稚園教育要領に示された新たな乳幼児教育を学び、実践しようと取り組んでいます
【公開保育の視点】
　◎環境と子どもの姿
　◎保育者の関わりと子どもの姿

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
相愛保育園
タンポポハウス
東山保育園
八雲保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
池内幼稚園
橘幼稚園
中舞鶴幼稚園
三鶴幼稚園
舞鶴幼稚園

※50音順

グループワーク　参加者が、「環境と子どもの姿」「保育者の関わりと子どもの姿」の2つの視点で保育を見とり、そのテーマ毎にグループに分かれ、よかったところだけでなく、これからの保育で挑戦してみたいこと等も含めて協議し、話合いを深めることができました。また、グループワークには実践者である倉梯幼稚園の保育者も参加することで、更に充実した内容となりました。グループワーク後には、話し合った内容を報告し合い、全体で共有することで学びを深めました。

【保育者の関わりと子どもの姿】
◎印象に残ったところ
・保育者の丁寧な言葉かけ。
・「いいね」「すごいね」など、共感の言葉や、子どもが遊びたいと思うような言葉かけ。
・一人一人の子どもを大切にする保育。
・遊びや子ども同士をつなぐ声かけ。
◎自分だったらこうしてみたいと思うところや、次への展開
・（4歳児）カメラマンになりきって撮影ごっこをしていた遊びでは、実際に写真を撮って、子ども達に見せるのもおもしろいのではないかと思う。

【環境と子どもの姿】
◎印象に残ったところ
・各コーナーにイメージしやすい写真が貼ってあり分かりやすいと感じた。文字が読めない子どもも写真だと分かりやすくてよい。
・アクセサリー屋さんのショーケースが窓枠であったり、保育者が子どもの興味・関心を見とって、環境を整えている。そのことによって、子ども達は遊び込めていると感じた。
・（5歳児）遊びがつながるコーナー作りがなされている。防犯カメラがあって、アクセサリー屋さんにやって来る泥棒や、泥棒を捕まえるための警察もいて遊びがつながっていると感じる。
・アクセサリー屋さんの隣に制作コーナーがあり、遊びに必要な物がいつでも作れるような環境がなされていた。

◎自分だったらこうしてみたいと思うところや、次への展開
・（5歳児）ふり返りにて
「アクセサリー屋さんに泥棒が入ったら困るから」とカギを作ったことを話す子があり、遊びがつながっているのだなと感じた。警察や泥棒役の子どもにも話を聞くことで、より遊びがつながるようになるのではないかと考える。

・クラス内だけでなく、園中に牢屋があったり、園中を警察が泥棒を追いかけるなど、クラスの垣根を越えて遊ぶ環境も楽しいかもしれない。

神代千恵子先生　カンファレンス

◎6月に初めて倉梯幼稚園に来させていただき園の保育や子ども達の姿を知ることができた。
　8月には、記録について研修を行った。記録を書くことで一人一人の子どもの姿をよく見ることにつながり、保育者それぞれの個性も出た記録が見られた。10月には園内の環境が変わり、それにともない指導案も変わってきた。

◎保育者が、遊びを楽しめていない子どもをどんなふうにとらえていくのか。子どもをよく見るというところに、つなげていってほしい。
◎子ども達が笑顔になる為にはどうすればよいのかと思ったら、もう一度幼稚園教育要領を見直してほしい。
◎幼稚園教育要領の総則には、保育者は幼児教育において、何をしないといけないのかということが、しっかりと書かれていると思う。
◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の項目にある主体性、というところをふまえながら、子どもをどんな風に見ていったらいいか考えていくと、自分自身の保育について見直すことができると考える。
◎保育全体を振り返り、子ども一人一人を振り返るために、記録を書くことは大事であると言える。
◎子ども達をどんな子どもに育てたいか、目標を明確に持つことが大切であると考える。

つづき

◎子ども自身がよく見て、よく聞き、よく話し、よく考え、よく遊ぶ子を育ててほしいと考える。
◎振り返りで自分を出して話すことは、とてもよいことだと言える。5歳児クラスの振り返りは、保育者が子ども達の思いを受け入れていて、とてもよかった。
◎振り返りは、長くなり過ぎない方がよいかもしれない。

例 「よく遊んだね。知らない子もいるから教えて。」「準備しておくものあるかな？明日準備しておくね。」 などと言葉をかけ、子どもの気持ちをよく見て、寄り添っていくことが大切ではないか。
◎行事について
子どもが主体的に活動するためにはどんな行事がよいのか。子どもと保育者とが一緒に考えていくことが大切ではないかと考える。

北野幸子先生　カンファレンス

乳幼児教育には教科書はなく、保育は保育者が子どもと一緒に考えていくものだと考える

【これからの乳幼児教育】
◎今、日本中で進めようとしていることとして、自園の発展のために、外部の講師とともに、自分の思いを持ちながら保育を公開し、1年、2年、3年のスパンで継続的に園内研修を繰り返し、かつ研究発表会の時に、研究成果を地域の園に還元する。そういうシステムが教育委員会の予算で、公立の高校、中学校、小学校、幼稚園に保障されている。
◎保育を探求し続ける心のある人か、そうではない人かを問われている。実践という、唯一無二の方法があるわけではないが、変わるという気持ちを持つことが大切だと考える。
◎時代が変わると、子ども達も社会も変わり保育も変わらざるを得ない。地域に子どもがいないという現状の中、保育園や幼稚園が保障しなくてはならないのではないか。
◎今、世界中で3歳以下の無償化が進んでいる。フランスでは、2019年の秋に3歳以降義務教育になることが決まった。これからの時代は、自己を発揮していったり、創意工夫したりする子どもを育てていくことが必要だと考える。

【保育について】
◎乳幼児教育には教科書はなく、保育は保育者が子どもと一緒に考えていくものと考える。
◎予想通りに進まないほうが、子どもの思考がたくさん生まれるのではないか。
◎遊びや活動は目的化しないようにすることが大切だと考える。
◎子どもが興味を持って、自らやってみたいと思い、できるように努力したり、友だちと教え合いながら活動する。乳幼児期は、コンテンツにしばられない、一生涯の学習の基礎であると考える。
◎内容通り、手順通りの遊びでは、子どもの思考力は育たないと考える。クラスの環境の中で、手順通りであったり、使い方が固定されているなどの玩具や遊びや、映像刺激が多すぎないか考えてほしい。
◎5歳児クラスのピンボールのゲームは、か

まぼこ板を固定しないから向きが変えられたり、自分でアレンジできて面白いと感じた。

◎0、1、2、3歳の保育室は、五感を意識し

てほしい。色、形、動き、音、肌触りという観点からバランスはどうかということを考えてほしいと思う。
◎4、5歳は製作できる環境や、調べたり、比べたり、測ったりといった科学的探究のコーナーがあるとよいと感じた。
◎環境について悩んだ時は、子どもと一緒にどんな風に変えていくかを考えるとよいのではないか。環境の構成だけでなく、子どもと一緒に環境の再構成をしていくことが大切だと考える。
◎子どもが自分で工夫することや予測不能のことなどを、保育者も楽しみながら考えてほしいと思う。
◎子どもの遊びの発展には、環境の再構成にどれだけ子どもを巻き込めるかが大切であり、それにより遊びは変わっていくと考える。
◎遊びのコーナーの中にイメージや役割、ストーリーといったものがどれくらいあるのか。保育者がコーナーのイメージやストーリーを口に出して言うと、周りの子ども達ともつながっていくのではないか。
◎子どもが主語になるような言葉、行動と心の部分を言語化することが大切だと考える。

平成３０年度　第７号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年2月16日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

11月13日　岡田保育園　公開保育を実施しました

今年度最後の公開保育・グループワーク・カンファレンスを岡田保育園にて実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただきました。

岡田保育園では、豊かな自然、四季折々が感じられる空間と穏やかに流れる時間の中で子ども達が自分の好きな遊びに夢中になって過ごしていました。広すぎず、狭すぎず、ちょうどよい空間とゆったりとした時間の流れに参加者も優しい穏やかな気持ちになりました。

【公開保育　研究テーマ】

「夢中になって遊び込む」をテーマに日々保育実践している。秋も深まり、子ども達の興味関心、やりたいこと、試したいこと、経験も様々重ねてきている。盛んになってきている自然素材、身近な教材を使っての製作遊び・ごっこ遊び等を保育者が、どう広げ、つなげていけばよいかを話し合い、保育の充実に取り組んでいる。本園の環境を通して、子ども達は何に気付き、学びへとつなげているかを考えていきたい。

◎環境と子どもの姿　◎子ども同士の関係性　◎保育者の関わりと子どもの姿

以上の視点で保育を見とって頂きたい。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
昭光保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
東山保育園
やまもも保育園
八雲保育園
ルンビニ保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
倉梯幼稚園
三鶴幼稚園
舞鶴幼稚園

（50音順）

公開保育

木のおもちゃ、自然物、手作り玩具がどのクラスにも共通して意識されている・・・
豊かな自然を満喫できる素敵な環境を大事に　～北野先生カンファレンスより～

【興味や発達に合わせた玩具】0．1歳児

保育室には個々の興味や発達に合わせた手作りの玩具があちこちに設置されており、それぞれ自分の好きな遊びを見つけたり、保育者の膝の上に座って絵本を読んでもらったり、歌いかけてもらったりしながら安心して過ごす姿が見られました。ウッドデッキに出ると幼児クラスの子どもが声をかけてくれ、笑顔で近づいていく子の姿も見られました。

＜北野先生コメント＞

マラカスは、0・1歳児はヤクルトの容器ぐらいの大きさがちょうどよいと思われる。ラムネの空き容器もちょうど握りやすいサイズだった。子ども達の指サイズや手のサイズを意識して用意されていると感じた。

ガムテープの輪を壁にかける玩具の高さが少し高いと思ったが、背伸びをするとちょうどよい高さになっている。ちょっと手を伸ばしたりつま先立ちしたりということが子どもたちにとって楽しくなる工夫がされていると感じた。

園庭が見えるウッドデッキは、0・1歳児の子が外にいる子と関わりを持とうとしていたり、リレーの時にもデッキから幼児の子を応援する姿が見られたり、異年齢の子との交流や憧れの気持ちを持つことができると感じた。

【ままごと・絵本・手先を使った遊びのコーナー】2歳児

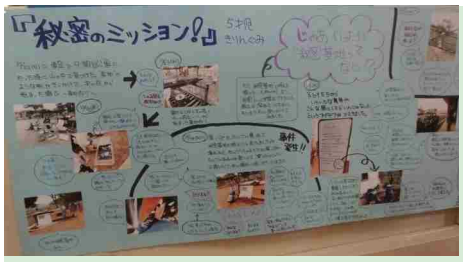
保育室に大人が入って来ても気にすることなく、遊びに夢中になっている子ども達の姿がありました。1つ1つのコーナーが少人数で遊べるように丁寧に作られており、安心してくつろげる環境になっていました。

＜北野先生コメント＞

ままごとコーナーは、本気でトントンと包丁で切る真似をしている子がいた。最近はピザ屋やマクドナルドの再現が多い。お茶を「どうぞ」と入れてあげるような家庭的な生活感のあるままごとを久しぶりに見た。このようなやりとりを大事にしたいと思う。キッチンが壁に向けて設置してあった。2歳は壁に向かっている方が集中・没頭しやすいと思われる。料理を出したりお店やさんごっこのように言葉でのやりとりが盛んになる3歳ぐらいからはオープン型キッチンにするとよいと考える。

お部屋に入ると、赤ちゃん人形を抱いている女の子がやって来て、“しぃーっ”と言いながら指を立てて“静かに”のポーズをし、そして、体をリズミカルに上下させて赤ちゃんを寝かせているような姿が見られた。2歳児ながらに慈しみの気持ちや優しさがしっかりと芽生えているのを感じた。“本当だね、寝てるもんね”等その子の気持ちに共感して代弁するような関わりをこれからも続けてほしいと思う。

手先を使った遊びが棚から見えるように3～5つ用意され、自分で取り出せるようになっていた。製作コーナーは、集中してできるスペースがあり、絵本コーナーも保育者と1～2人の子が一緒に過ごせるような空間になっており、乳児保育において大切にしたい環境が整っていると感じた。



【秘密基地】 5歳児

乳児室の裏側の隙間に5歳児の“秘密基地”がありました。きっかけは、遠足で見かけた山の斜面を利用した倉庫。園庭の真ん中に段ボールで作ったけれど、他のクラスの子ども達が入って遊び出し、これでは「秘密基地じゃない」となり、見つからない秘密基地を廃材（木材等の）で作ることになりました。クギ打ちが得意な子どもを中心に基地ができあがりつつあります。

＜北野先生コメント＞

子どもたちの中にストーリーや役割があると感じた（“変なやつが来ないか？”と入り口に双眼鏡がある、“入るためには合言葉がいる”等）。振り返りで“秘密基地ってこうだよね”“こうしようね”ということを子ども達と保育者でしっかりと共有されていることが感じられた。

クギ打ちは、気持ちを安定させ、集中する力を身につけるとも言われている。始めは、保育者がそばについて、使いこなせる経験が蓄積されてきたら、子どもたちの方から安全を考えて注意深くできるようになって来ると思われる。

グループワーク

参加者が、「環境と子どもの姿」「子ども同士の関係性」「保育者の関わりと子どもの姿」の3つの視点で保育を見とり、そのテーマ毎にグループに分かれて、よかったところだけでなく、これからの保育で挑戦してほしいこと等も含めて議論し、深めることができました。また、グループワークには実践者である岡田保育園の保育者に入っていただき、更に、充実した内容となりました。グループワーク後には、話し合った内容を報告し合い、学びを全体でも共有することができました。

【環境と子どもの姿】
◎2歳児の午前のおやつが一斉ではなく、遊びに区切りがついた子からというのにびっくりした。
◎大人が見ても素敵な環境で、本物がある（金づちなど）というところがよい意味で子どもに合わせていなくてよいと思った。（痛い思いをすることもあるが、しっかりと重みを感じられる）
◎カレー鍋ややかんなどは数年前の水害で園の給食室で使えなくなってしまったものを現在は遊びに使っている。（よりリアルに再現できる）
◎“金曜日はカレーの日“というのもあり、子どもたちの中に身近なカレー作りが遊びとして広がってきている。“隠し味”“各家庭の作り方”“具の大きさ”“辛口・甘口”などそれぞれに工夫したり、クッキングをよりリアルにおままごととして遊びに取り入れている。
◎ニコニコハウスに本物のティーカップが置いてあった。（子ども達の声から）本物を扱う中で、物を大事にする気持ちが育ったり、使い方を知ることができている。
◎“危ないからさせない”のは簡単だが、経験・体験の中から学ぶことが多いので、できるだけしたいことができるように環境的に難しいところもあるが、みんなで声をかけ合って保育をしている。
◎積み木のタワーは、以前は片付けていたが、子どもたちの思いを大切にしたいという考えからそのままにしている。夕方の合同保育では0・1歳児が一緒にお部屋で遊んでいるが、壊そうとすることもなく、次の日を迎えられている。
◎どのコーナーを見ても1つ1つのモノが大事に置いてあったり、使われていたり、素材も豊富で子どもたちがそれぞれに選んで遊べるという環境が素晴らしい。
◎廊下にお米の展示があったが、小さい子がいても全然混ざっていなかったという話をしていたら、混ざっていても5歳児さんが元に戻してくれる。どうしても触らないでほしいものには5歳児さんが自分たちで立て札を作っている。保育者が言わなくても年長さんに優しく教えてもらっている。
◎初めはままごとなんかもごちゃ混ぜになっていたが、いろいろ経験していくうちに食べるところと作るところを分けたほうがよいという考えに行き着き、現在に至っているとのこと。

【子ども同士の関係性」】
◎全体的にトラブルもほとんどなく、それぞれに自分の遊びに没頭し夢中になって遊んでいた。
◎自分の好きな遊びを選んで遊んでいることや気の合う友だちが集まって遊んでいるのでトラブルも少ないのかなと感じた。
◎ネックレスを作っている場面で、ピンクと白のビーズを交互に入れてドングリを中心に左右対称に入れていきたい女の子と左からピンクばかりを入れてしまう男の子が一緒に作っていた。

途中でピンクがなくなってしまうと男の子が足りない分のピンクのビーズを取りに行った。右からもビーズを入れて欲しかった女の子は何も言わずに、男の子がその場を離れた隙に左のビーズを抜いて右に入れていたという場面があった。帰ってきた男の子もそれを見て何かを言うわけでもなく、ドングリをネックレスに通すための穴を協力して開け始めていた。少人数が故、何も言わなくても通じてしまうところがあるのではないか。
◎5歳児11名という人数は、遊びが多いと分散してしまうので、子ども同士の関わりというところでは難しいところもある。一人一人じっくりと遊べるという利点もあるので、保育者が子どもたちの様子・遊びをしっかりと見極めていくことが大切だと思った。
◎秘密基地作りの間、いろんな子から“これは？”“あれは？”と聞かれている一目置かれた子がいた。元々は夢中になれることがなかったようだが、その子のお父さんが大工さんだということもあり、周りの子から認められて自己発揮ができるようになったとのこと。遊びの中で子どもたちが活躍する姿が見られたのがよいと思った。

【保育者の関わりと子どもの姿】
◎子ども自らがする行動を任せていたり、委ねておられた。子どもを信じる、任せるという部分が大きかったと感じた。
◎他園では人数が多いこともあるが、なぜあんなにゆったりと関われるのかと感じた。しかし、少ないが故に関わりすぎてしまわないように気をつけておられた。
◎子どもに対してみんな同じ意識をもって関わっておられるように感じた。禁止語があったわけでもなく、子どもを急がすこともなく、「〇〇をしよう」と促したわけでもないのに、子どもと保育者の間に言葉では見えない関係があったように感じた。
◎3歳児が遊んだ後のカレーの鍋で、2歳児が遊んでいた。大きい子たちが残した遊びを小さい子が継続して遊びを共有するという姿がよいと思った。
◎2歳児であっても、おやつやトイレという一連の流れは保育者がそばについていなくても、子どもたち自らできるというのがすごいと思った。
◎2歳児は、じっくりと安心して遊べる保育室でままごとを楽しんだ後、幼児クラスのパンやさんのところでも楽しそうにしていたので、一緒に参加して、お店屋さんごっこのようなやりとりを楽しんでもおもしろいと思った。

◎指示や命令ではなく、語りかけや自分達で考えたり気づきのヒントとなる言葉がけが印象的だった。
◎子どもに興味や期待を持たせるような豊かな言葉がけをされていた。食べ物1つでも“今日はこれはどんな味かな？”と次への期待が膨らむような言葉がけが印象的だった。
◎幼児は雨が降ってきても保育者が部屋に戻ることを促すのではなく、判断を子どもに委ねておられるのが、子ども達がのびのびと過ごす1つの要素になっているのではないかと感じた。
◎“お片付けしよう”という言葉がけはしない。“お片付け”というのは子どもにしたら“もうお片付けか…”負のイメージにもなるので、“元に戻そう”や“今日は閉店ね”などの言葉に言い換えて伝えている。
◎物が豊富に揃っている環境の中で、物の数を減らしてみたら子どもたちがどのようにして関わるのか？を見てみたいという意見が出ていた。

カンファレンス

【全体】
◎今日も力のある先生たちが集まっていると感じた。舞鶴市と関わりをもち早6年…グループワークの報告を聞いていて地域の底力を実感した。
◎じっくりと幸せそうに遊んでいる子どもたちの姿がとても印象的で、本当に穏やかで優しい子どもたちだと感じた。2歳児の部屋に入ったときにもこんな風に遊んでいるのかと本当に驚いた。
◎広すぎず、狭すぎず、保育者に援助を求めたり、保育者が子どもとのちょっとした興味や関心に気付いたりがしやすいちょうどよい空間と人数と感じた。北欧に行ったような気分になった。
◎穏やかで優しくて幸せそうで、でも、内心では聞いて欲しかったり、言いたいことがあったり、イヤだなと思いながら折り合いをつけたり、そんな関係性が保育者と子どもに感じられた。
◎【木のおもちゃ】【自然物】【手作り玩具】がどのクラスにも共通して意識されている。かりんの香りがほんわかと漂い、落ち葉のじゅうたんが四季を感じられ、豊かな自然を満喫できる素敵な環境を大事にしてほしいと思う。

【環境】 ※Page1にも記載
◎ニコニコハウスに本物の食器が置いてあった。家庭でも特別な時と普段とで使い分けたりするように、場面によってそういうものが使える環境はあってもよいと感じた。
◎怖わそうにビクビクと物を触っていないかという視点として見ていくと、園の子ども達はビクビクしていなかった。保育者には、形ある物はいつか壊れるという寛容性が大切だと感じる。子どもにとっても形あるものは壊れるという体験も大事なことではないかと思われる。

カンファレンス　つづき

イメージを持って・・・“何を作りたいから何を使うか“”何に必要だから何を選ぶ“というように材料を選んでいく。　～北野先生カンファレンスより～

◎物を大切にすることとビクビクすることは違うことからも保育者の関わりが重要になってくると思う。
◎絵本も今、興味のあるものをピックアップして、15冊ぐらいが見える、取り出せる環境にしておくとよいと思われる。絵本が見やすく読みやすい状態にあると、読みたい気持ちも刺激されるのではないか。
◎はかりが置いてあり、収穫した野菜や自分ではかりたいものをはかったり、グラフを書いたり、楽しんでいる様子が感じられた。乳幼児期の子ども達のすることは正しさを求めなくてもよいと考えている。たくさんの物と関わることが重要だと思う。

◎子どもの見えるところ、手に届くような低いところに並んでるのもよいと感じた。
◎すぐにはかったり、比べたりができる道具を置き（虫眼鏡、はかり等）、調べられるものと実物が近くにある方が関わり方も深まると考える。

◎室内には、子どもの作ったものが飾られており、保育者が可愛いものを一生懸命作るのではく、子どもと一緒に作ったり、飾ったりする方がよいと考える。
◎積み木は、絵や文字の無い低構造のものを選ぶ方がそれぞれイメージを持って作ることができると思われる。同じ形の無地の積み木がふんだんにあり、友達とイメージを共有して遊んでいると感じた。
◎また、続きがいつでもできるような環境となっていた。ストーリーのある展開のもの（基

地、家等）は続いていく方がよいので、余裕があったら残しておき、明日やろう！という期待を持つことにつなげていくとよいと感じた。

【その他】
◎運動能力の高さを感じた。自由に動き回れる環境が日頃からある蓄積ではないか。
◎子ども達の製作が画一的でないか？という視点で見ると、1つとして同じものがなく、それぞれに個性が出ているように感じた。
◎子ども達はイメージを持って作っているので、“何を作りたいから何を使うか“”何に必要だから何を選ぶ“というように材料を選んでいた。量ではなく、いろいろな素材を置き、それが何かが分かり、自分で取り出して作れるのがよいと感じた。

◎保育者が用意するだけでなく、家にある物で自分が作りたいものが作れるように、それに使う素材を自分達で選んで持って来ることも大事と考える。

【ドキュメンテーション】
◎子どもたちの実験の様子を実物を置きながらドキュメンテーションとして書いてあり、また、子どもから見える場所というのもよいと感じた。
◎ドキュメンテーションやおたよりが本当に丁寧に作ってあり、内容も充実していると感じた。
◎次のステップは、“子どもたちは何をよく見ているのか”“どの子がどのドキュメンテーションを見ているのか、どのように振り返っているか”という視点でも見てほしいと思う。
◎ドキュメンテーションは、当初保護者に説明する媒体として広まってきたが、保育者同士が他のクラスの様子や発達による差に気付ける役割もあると思う。
◎ドキュメンテーションを子どもの振り返りにつなげ、子どもと共有したり、他者の経験を擬似的に感じたり、気付いたり、関心を持ったりして広げていくこともできると考える。

【集会場面（振り返り）について】
◎次への意欲につながるクロージングを推奨したい。
◎3歳児から振り返りをやってほしいが、自己中心性が高いので難しい面もあると思われる。人の話を聞くよりも、話したいという気持ちが強いので、3歳児は半分ぐらいの子が聞いていたらよいと思ってほしい。平等性や規律性・態度を考えるのは少しでよいのではないか。先ずは、保育者に人前で話を聞いてもらう喜びを感じられるようにしてほしい。その経験の積み重ねが次につながると思う。
◎振り返りは状況に応じてできるので、30人だと多かったら10人ずつぐらいでの振り返りでもよいし、盛り上がっている遊びごとでもよいと思う。
◎ポジティブに、意欲につながるクロージングにし、どんな小さなことでも、“いいね”という自分に対しての肯定感や自尊感情のイメージを育んでいってほしいと思う。
◎話を聞くために我慢したり、叱られたりするようなイメージで終わるのではなく、よりよい自分、もっとこうなれるかも、“〇〇ちゃんよかったね”等、肯定的なイメージが持てるようにされているのがよかった。

【子どもの主体性の尊重と保育者の自己発揮】
◎保育者は、マニュアル化できない困難さや自らの責任で判断を下さなければならない厳しさのある専門職である。
◎保育者は、“あれもしたらあかん、これも言わないでおこう、こういう時はこうしなくちゃ“という真面目さからも脱却してほしい。
◎保育の文化は、謙遜、善意といった部分が大きく、自己評価が低くなりがちと感じている。子どもたちのために頑張りすぎて疲弊してしまう危険性もある。また、他の同僚への要求や期待が高くなりすぎる傾向もあり、厳しくなるあまり、萎縮してしまうこともあると思う。
◎期待があるからお互いに厳しくなることはあるが、力をもっているのに過小評価傾向のある保育者は、得意なことやよいところをどんどん伸ばして、自信を持って、自分の力を評価してほしいと思う。

11月12日　ドキュメンテーション研修を実施しました

グループに分かれ、参加者の書いたドキュメンテーションをワークシートの視点にもとづき、検討するグループワークを実施し、北野幸子先生より、それぞれのドキュメンテーションについてご指導いただきました。

【北野先生コメントより】
◎実践力をつけるためには、実践を見たり、実践を題材にして思考したりしていかないと力はつかないし、経験年数があったとしても、実践を振り返らず、やりっぱなしにしていても力はつかないと考えている。
◎ドナルド=ショーンによると、人と接する専門職（医者、美容師、弁護士、保育士等）は、自分の実践を振り返り＝リフレクションすることで専門性を高めていくとしている。
◎同じキャリアでも、実践力のある人は選択肢をたくさん持っていると考える。
◎記録を題材にして、実践を実際にした人としていない人、いろんな人達が意見を出し合うことは、明日の保育のとっさの判断の糧（選択肢）になると思われる。
◎判断の根拠になる、判断するにあたって自信になるような確固たるものが自分の中にあるかないか、経験を咀嚼して、意味づけして、意味とセットで自分の実践を持っておくとよいと思われる。
◎一人より他者と行うことや、同僚と語り合うことが大切ではないか。ただお喋りではなく、“何がよかったか、どこを工夫したか、どんな援助がよかったか“と深めていくとよいと考える。
◎よいドキュメンテーション、完璧なドキュメンテーションではなく、考える題材にしてほしいと思う。昨日のこの子と今日のこの子は頭の中身、考える力、感じる力、脳の中身が日々進化していると考える。こうすれば上手くいくということはなく、私達も常に考えながら、**目の前にいる子どもから判断し、決断し、行動して保育をしてほしいと考える。**

参加園

さくら保育園
昭光保育園
なかすじ保育園
東山保育園
八雲保育園
ルンビニ保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所

朝来幼稚園
池内幼稚園
シオン幼稚園
舞鶴幼稚園
（50音順）

平成30年度　第8号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年3月29日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

1月29日　保幼小連携研修を実施しました

今年度、連携活動を担当している保育所・幼稚園　5歳児担任、小学校1年（2年）担任教諭等を対象に保幼小連携研修会を実施しました。

グループワークでは、「連携活動における子どもの学びと育ち」というテーマのもと、記録シートを活用して連携活動の中に見られた幼児・児童の学びや育ちについて交流し、交流後、グループ発表を行いました。グループワークの視点は、①「記録シートの中に見られる子どもの学びや育ち」②「よりよい連携活動にしていくための手立てについて」の2点でした。各園・校の連携活動をまとめた実践シートをもとに、保育者・教員が共に実践を振り返り、幼児や児童の学びや育ちについて交流することで、今後の連携活動に大いに役立つものとなりました。

鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生のご講演では、小学校に何をつなげればいいのか等、連携活動の課題について学びました。

日時　：　平成31年1月29日（火）14:30～16:45
場所　：　舞鶴市政記念館
内容　：　グループワーク　講義

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園	岡田小学校
岡田保育園	池内幼稚園	倉梯小学校
さくら保育園	倉梯幼稚園	倉梯第二小学校
昭光保育園	シオン幼稚園	志楽小学校
相愛保育園	橘幼稚園	新舞鶴小学校
平保育園	中舞鶴幼稚園	中筋小学校
タンポポハウス	ひばり幼稚園	中舞鶴小学校
なかすじ保育園	舞鶴聖母幼稚園	福井小学校
東山保育園	三鶴幼稚園	三笠小学校
八雲保育園	舞鶴幼稚園	明倫小学校
やまもも保育園	朝来小学校	由良川小学校
ルンビニ保育園	余内小学校	吉原小学校
うみべのもり保育所	池内小学校	与保呂小学校
中保育所	大浦小学校	（50音順）

グループワーク

12グループに分かれて行ったグループワークでは、グールプの中から1つの園又は校の連携活動記録シートを活用し、①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に基づいた「子どもの学びや育ち」、②「よりよい連携活動にしていくための手立て」について個々に付箋に書き出していきました。その後、付箋に書かれた①②についてグループの中で意見交換を行いました。各グループを代表して、4つのグループが以下のとおり報告を行いました。

【第９グループ検討事例】
池内小学校・池内幼稚園　「すてきに　へんしんしよう」

自分達で集めた秋の自然物（木の実、葉等）を使い、かんむり作りを通して交流する。5歳児、1年生共に達成感のある活動とするため、それぞれに自分でかんむりのデザインを考えた。また、1年生がお世話するのでなく、一緒に遊ぶことをねらいとし活動した。

・1年生はしっかりしなければ、頑張らなければという意識を呼び覚まし、5歳児は1年生に気軽に教えてと言える機会だった。【協同性・自立心】
・普段は発表しづらかったり、話をするのが苦手な子どもも、子ども同士だと心と心のつながり合いで、自然と会話が生まれている場面をよく見かけた。【言葉による伝え合い】
・幼児期の遊びを通して自然と関わる中で、五感を働かせて学んでいる。そのことが全ての学習につながっていると言える。
・園と学校の先生同士で話をする機会を多く持ち、様々なことを教え合い、仲良くなりたい。そうすることで、新たな発見や気付きがあるのではないか。もっと気軽に連携できるとよいと思う。

～木下先生より～
・5歳児は、園で最年長なのに小学校に入ると最年少であることから、高学年にお世話されている。生活科では「自立」と言われているのに矛盾しているのではないか。幼児期にいろいろなことができるようになって小学校に入学してきていることを忘れてはいけない。
・幼児期は、体・目・耳などを使っていろいろなことを学んできている。そこに小学校の学習を乗せていくことが望ましい。
・保幼小での連携活動は、生活科中心でなくどの教科であってもよい。先生の特技を活かした活動を取り入れるなど、できることから始めればよいのではないか。
・小学校は郊外へ出かける際に、校外学習届を出さないといけないが、可能であれば、出かけたい時に出かけられる環境を作ってほしい。
・以前、幼稚園の遊戯室で劇の練習をしたことで、園児が観客になってくれた。1年生は一生懸命練習し、また、園児にとっては刺激になり、両方にとってよかった。小学校の教室での学習と幼稚園の遊戯室での学習は全く違う評価感であり、子ども達の姿を見て、自身の評価感が変わった。

【第12グループ検討事例】
由良川小学校・八雲保育園　「あきをたべよう」

サツマイモを植えたり、掘ったり、食べたりする従来の活動に加え、重さ比べをすることで、サツマイモとの関わりを深める活動とした。いろいろな量りを準備し、試せるようにしたり、サツマイモを大・中・小の大きさに分け、全部でいくつあるのかを考えたりした。1年生は少し前に3つの計算の授業をしていたので、式に書いて考える子どももいた。

・春に植えたサツマイモを掘ると、ゴボウやゴーヤのようなサツマイモだった。どうしてこのようなサツマイモになったのか、子ども達がそれぞれに考える機会となった。
・「台ばかり」「ばねばかり」「体重計」を準備し、重さを量る活動を行った。大きさを分ける活動をしたり、重さを量ることで、数量や数への関心や興味を持つことにつながった。
・子ども達の活動に、思わず口を出してしまいたくなるが、子ども達の様子を温かく見守ることが大事だと言える。
・たくさんの道具があるとよいと思い、色々と準備したが、かえって子ども達が戸惑ってしまったかもしれない。
・重さが目に見えて分かるような、天秤やシーソーなども活用できるということに気付けた。

～木下先生より～
・サツマイモと3つの計算はピッタリの授業であると考える。今回は、先に3つの計算の授業をしたと言われたが、実際に数えることを体験した後で教科書に入る方が、理解しやすいのではないかと考える。
・自分達で育てて収穫したサツマイモだから、誰一人数え間違わないだろうし、学びに必然性が生まれくるのではないか。
・導入はできるだけシンプルにし、5分程でよいのではないか。「数えたい」「並べたい」「比べたい」という思いを持たせて、必然的に数えるとよい。
・以前の連携で、小学生が園に来た時に、園児が部屋から飛び出してくるシーンがあり自然体でよかった。連携活動は自然に、子どものありのままの姿でよいと考える。

グループワーク　つづき

【第8グループ検討事例】
中舞鶴小学校・中保育所 「なかよし芋パーティー」
5 歳児と 1 年生が共に栽培したサツマイモを収穫し、クッキングをしたり、食べたりすることを通して交流を行った。（切ったサツマイモをホットプレートで焼く）調理の過程で、焼けるサツマイモの色や固さの変化に気付く姿や、お互いに声をかけあったり、協力したりする姿が見られた。

・子ども達の意欲を引き出すためにと悩んでいたが、小学校が保育所の子ども達の散歩コースだったこともあり、自然に遊ぶ機会が多かった。
・1年生が5歳児に対して、お世話をするということを意識していたが、5歳児から言葉をかけたり、関わろうとする姿や協同する姿も多く見られた。
・1年生は、連携活動の後に絵手紙を作成し、振り返りをした。詩や図工の学習をする中で作り上げた作品であり、様々なことを振り返ることにつながり、思い出に残る活動になった。
・保育所で連携活動をすることで、主体的に活動する園児の姿が見られた。また、多くの児童は保育所出身であったため、心を開放しながら活動ができた。小学校に活動場所を特定する必要はないと感じた。
・子どもが自ら考えることができる場面設定や、創造性のある活動を組み込んでいくことで、さらに楽しくなるだろうと考える。

～木下先生より～
・散歩コースの中で交流するという必然性がよいと言える。
・「10の姿」で考えると【協同性】だが、生活科の場合は【互恵性】である。1年生が「〇〇してあげよう」ではなく、一緒に活動する、夢中になる活動を設定することが望ましい。
・連携活動は食育でもよいのではないか。何より必然性が大切であり、出かけたり、訪ねてきてもらうとよい。

【第7グループ検討事例】
朝来小学校・朝来幼稚園 「あそびのフェスティバル」
あそびのフェスティバルを連携活動とし、春からその準備等を 5 歳児、1 年生、2 年生が協力し合いながら進めてきた。事例は「ボウリングやさん」の様子であり、友だちと相談しながらピンの並べ方を考えたり、転がす物を何にするか工夫したりする姿が見られた。

・子ども達自身が、容器の並べ方や転がす距離、転がす物を考え、工夫があった。距離を推測する力や容器の重さを感じられた。
・朝来小学校は1、2年生が連携活動をしているため、3人が1つのグループとなっている。3学年（5歳児、1年生、2年生）だと憧れを感じられ、一緒に活動することが楽しさを見出している。
・毎年、フェスティバルを連携活動にしているが、数年続ける中で、回数を多く持つだけでなく、ほどよい回数があると感じた。お互いに無理がなく、子ども達もよい距離感を持てていた。
・大人は完成形を求めて子どもを誘導しがちだが、子ども達自身で、考え、工夫し、遊びを進めている。
・あるグループでは、ヤクルトの容器を使ってモグラたたきを生み出した。遊びが終わった時には容器がボロボロになっていたが、子ども達の顔はとても満足していた。また、別のグループでは、ペットボトルを避けて通る遊びをしていた。大人にとっては、面白いのかなと思うものだったが、子ども達には人気のコーナーだった。子ども達が生み出すものは感性があり面白いと感じる。

～木下先生より～
・（一つの活動に限らず）連携活動は何回行ってもよい。可能であれば何回でもよいのではないか。
・夢中になれるような遊びや学習をどう作るかが大切である。チャイムが鳴っても「まだ続けたい」という気持ちが一番大事である。

講義

連携活動には「楽しく」「仲良く」も必要だが、生活科は、「気付き」や「探究」にねらいを置くことが大事である。そこに生まれた会話や子どもの学びを、言語化し残すことが大切である。　～木下先生講義より～

【連携活動の課題】
・連携活動に飾りなどは必要でなく、飾りを作るよりも一緒に遊ぶ方がよいのではないか。
・「楽しく遊びましょう」と書いてしまいがちだが、書かなくてもよいのではないか。「仲良く」「楽しく」は子どもが決めることであり、「仲良くしなさい」とは言う必要はないが、仲良くしていることは褒めることが大切である。
・連携活動はありのままで、お互いに無理の言える関係になれるとよいのではないか。それが本当に仲が良いということだと言える。
・連携活動だからといって、5歳児と1、2年生だけが活動するのではなく、他学年の子どもも参加することで活動が活性化されたり、質問を受けたりすることで、活動がよりよくなっていく。何をつなげればよいのか、活動の前によく考えることが必要である。
【幼稚園のビデオより】
◎環境について
・子ども達が気付いたり発見したりする環境があり、環境の中に子どもの学びを見込んでいる。ただ物が置いてあるのではなく、子ども達が気付くようなメッセージが添えられていることが大切である。生活科もこうあることが望ましい。子ども達がより自然に興味を持つ環境を小学校の教室でどのように整えていくか、そのヒントは園にあると考える。

・幼児の生活の中には、言語、数量、科学、絵画、歌、表現等全て入っている。ただ単に物が置いてあるのではなく、子どもが興味を持ち、気付きや発見を誘発する言葉を添え、環境としてあるのが幼児教育である。
◎5歳児の表現遊びについて
・決められたセリフは一言もなく、自分で考えて話している。これこそが『表現遊び』であると言える。5歳児の時期にこのような表現遊びができるというのは、コミュニケーション能力が育っているということであると言える。
・5歳児は5歳児なりに、4歳児は4歳児なりに表現する。互いの姿を見せ合い、刺激を与えながら、幼児教育の質を上げていくことが求められている。
・表現遊びは見てもらうためにやっているのではない。イメージの世界に入って想像力を広げることや、自分が想像したことに合わせて体を動かすことが大事である。
◎話し合いの場面について
・理路整然と話せなくても、自分の意見でその子なりの表現ができればよい。言葉での伝え合いは、表現遊びだけの世界で育つのではなく、普段から自分達で言葉を伝え合い、みんなで協同できることを日々の生活の中で育てている。
・4月から子どもを主体とした生活が営まれてきていることで、この時期に、自分なりの言葉で分かるように話すことや、上手でなくても伝えたい気持ちが育っている。また、周りの子ども達は、理解しようとして聞く力が育ってきている。
・これだけ育っている5歳児が小学校に入学するため、この上に何を積み上げていくかが重要と言える。幼児期と児童期がうまくつながることが望まれる。
【今後に向けて】
◎連携活動は無理をせず、できることから始めることが大切である。園長先生と校長先生の間で、普段から行き来できる環境を作ってもらえることが望まれる。
◎連携活動は、幼児の中には小学校への安心感が育ち、1年生は幼児と関わることで自立心や自己肯定感が育まれてくる。
◎幼児期が充実した幼児期であること、小学校が充実した小学校であること。充実したものと充実したものが融合することで、更に充実したものになる。それぞれの学びや育ちを充実させて、お互いの良さを学び合うことができる連携活動を続けていけるとよいと考える。